

平成18年度(第50回)  
岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

中学校国語科における  
確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究  
- 論理的な思考を促す学習指導の展開をとおして -

研究協力校  
花巻市立石鳥谷中学校

平成19年1月9日  
岩手県立総合教育センター  
教科領域教育室  
千 田 博 之

< 目 次 >

研究の目的	1
研究の仮説	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 内容与方法	2
3 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導についての基本的な考え方	2
2 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導についての基本構想	3
(1) 生徒自身が読みの目的を明確にもつとは	3
(2) 「読むこと」の指導において思考を促すとは	3
(3) 論理的な思考を促す学習指導の展開とは	3
(4) 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本構想図	4
3 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案の作成	4
(1) 一教材の学習指導の展開に関する試案	4
(2) 一教材の学習指導の展開に関する試案の作成	4
4 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践計画と検証計画	8
(1) 授業実践計画	8
(2) 検証計画	8
5 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践と結果の分析と考察	9
(1) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践の概要	9
(2) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた実践結果の分析と考察	15
6 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめ	20
(1) 成果	20
(2) 課題	21
研究のまとめ	21
1 研究の成果	21
2 今後の課題	22

[おわりに]

【参考文献・参考Webページ】

## 研究の目的

今、国語教育の基盤ともいべき「読むこと」の学習指導が大きな課題とされている。事実、各種国際学力調査結果等の「読解力の低下」や本県の学習定着度状況調査結果の「『読むこと』領域の落ち込み」は明白である。また、研修講座では「文学的文章の詳細な読解偏重の是正」(学習指導要領)にかかわる「読むこと」の学習指導改善への戸惑いの声が寄せられる。

この状況は、大幅な時数削減、「文学的文章の読解偏重の是正」からくる読解指導への曲解、「情報収集として」「表現活用のため」といった新しい「読むこと」の学習活動への質的転換の遅れなどが融合して、文章を読ませない(読ませられない)「読むこと」の授業を生み出し、一方では、相変わらずの読解偏重と行き過ぎた精読主義の横行を許していることが要因として挙げられる。今求められるのは、「何のために、何を、どのように、どの程度」読むのかという「読むこと」の目的を明確にし、それを前提として巧みに構成された文章や言語の論理と生徒の内面の論理を向き合わせることをとおして、考えさせたり、想像させたりする学習指導の展開であると考え。

そこで、本研究においては、一義的で解釈中心の「読むこと」の指導ではなく、読み手である生徒自身が読みの目的を明らかにして、叙述の確かさや巧みさなどに接し、それと自分とのかかわりの中で論理的に思考する「読むこと」の学習活動について考える。そして、思考を促す発問の在り方と構成を明らかにし、自分とのかかわりの中で認識、判断、想像していく「個人思考」の場面と、その結果を他と磨き練り合う「集団思考」の場면을効果的に組み込んだ指導過程を展開することをとおして、生徒の確かな「読むこと」の力の育成を図りたいと考える。

## 研究の仮説

「読むこと」の授業において、生徒自身が読みの目的に気づけるような学習課題を設定し、思考を促す発問によって生徒が自らの言葉で表した考えを、集団思考の場をとおすことによって筋道立てられる学習指導を展開すれば、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育むことができるであろう。

## 研究の年次計画

この研究は、平成17年度から18年度にわたる2年次研究である。

### 第1年次(平成17年度)

中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究の基本的な考え方の検討、基本構想の立案と論理的な思考を促す学習指導の具体的な手だてを盛り込んだ試案の作成を行う。

### 第2年次(平成18年度)

論理的な思考を促す学習指導の試案に基づく授業実践を行い、その分析・考察をとおして中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめを行う。

## 本年度の研究内容と方法

### 1 目標

論理的な思考を促す学習指導に関する試案に基づく授業実践計画と検証計画を立案する。そして、計画に基づいた授業実践を行い、その分析・考察をとおして確かな「読むこと」の力の育成状況を検証し、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめ

を行う。

## 2 内容与方法

### (1) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践計画と検証計画の立案（文献法）

昨年度作成した論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案作成の手順及び留意点を明らかにし、試案に基づいた授業実践計画と検証計画を立案する。

### (2) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践の分析・考察（授業実践・観察法）

論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践計画に従って授業実践を行い、その結果について、授業における生徒の様子の観察や、生徒の確かな「読むこと」の力の育成状況について分析・考察する。

### (3) 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめ

授業実践の成果と課題のまとめ、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究仮説の妥当性について明らかにする。

## 3 研究協力校

花巻市立石鳥谷中学校

### 研究結果の分析と考察

中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導についての基本的な考え方と、それに基づく基本構想及び論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案の作成については、本研究の第1年次(平成17年度)に明らかにした。この第1年次の内容は、第2年次の研究内容でもあることから、以下にその概要を示すこととする。

#### 1 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導についての基本的な考え方

中学校国語科において確かな「読むこと」の力は、生徒が主体的に文章を読むことから育まれるものであり、主体的に文章を読むとは、生徒自身が読みの目的を明確にもって文章を読むことであるととらえた。また、論理的な思考を促す学習指導を展開していくとは、まず、書かれている文章を根拠としながらも、自分の言葉で考えを表すことであるとした。そして、自分の考えを、集団思考の場をとおすことで、「自分なりに」という個人の考えを「他者にもわかりやすい」という論理的な筋道を立てさせることであるとした。本研究では、この論理的な思考を促す学習指導を展開することで「読むこと」の力をより確かに育むことができると考えた。

以上のことから、本研究の中学校国語科における確かな「読むこと」の力を、「目的に応じて文章を読んで獲得した情報から自分の考えをもち、それを相手や場面に応じて適切に表す力」とし、この力を育てていくことが、【表1】確かな「読むこと」の力の構成要素と育まれた姿

「読書を自己の向上や生活に役立てていこうとする態度」の向上にもつながっていくととらえた。さらに確かな「読むこと」の力の構成要素と育まれた姿を【表1】のように表す。

構成要素	確かな「読むこと」の力が育まれた姿
主体的に文章を読んでいく力	・読みの目的を明確にもち、目的に沿って文章を読み進めている
自分の言葉で考えを表す力	・文章を根拠にして、自分の考えを自分の言葉で表している
考えを筋道立てる力	・自分の考えを交流をとおして、筋道がとおるように補足・修正している

## 2 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導についての基本構想

### (1) 生徒自身が読みの目的を明確にもつとは

生徒自身が読みの目的を明らかにして「読むこと」の学習活動を進めていくためには、指導者がその単元や教材において育てたい「読むこと」の指導事項を焦点化していることが必要である。本研究では、年間指導計画作成時に一つの教材に対して中心となる「読むこと」の指導事項を一つとすることで、生徒へ示す「読みの目的」を明確にすることができると思う。

実際の授業では、「読みの目的」は一つであるが、単元や教材の指導計画作成のときには、「言語に対する知識・理解・技能」(以下言語事項とする)の指導事項も含んだ計画にする必要がある。

### (2) 「読むこと」の指導において思考を促すとは

本研究における「思考」を、「生徒が指導者の思考を促す発問を受けて、教材を根拠としながらも、自らの言葉で考え、答えを導き出そうとすること」とし、それを促していく指導の工夫が必要であると思う。また、生徒の思考を促していくためには、答えが文章中に「書いてあること」を抜き出させて、「書いていないこと」を問われる発問が有効であり、生徒は答えが文章中に「書いていないこと」を問われることで戸惑いを感じ、「書いてあること」を手がかりとしながらも、自分の言葉で答えを導き出そうとするようになると思う。

この考え方を受けて、本研究における思考を促す発問の構成を【表2】に示す。

【表2】思考を促す発問の構成

発問の種類	発問への答え	例
抜き出して答える発問	・文章に書いてあることをそのまま抜き出して答えることができる	・「それ」とは何か ・どこに書いてあるか
内容をまとめていく発問	・文章にそのまま書いていないが、書いていることを参考にしてまとめて答えることができる	・ がわかる内容を文章中からまとめなさい
課題に対する自分の考えをもつ発問	・文章の内容を根拠に、自分の言葉で文章化して答えることができる	・ (課題)に対する自分の考えを書きなさい

「抜き出して答える発問」は、答えを文章からそのまま抜き出させることを目的とした発問であり、登場人物の言動や指示語の内容を問うことなどがこれに含まれる。この発問による応答を展開することで、生徒は文章の内容を把握していくための情報を得ることになる。

「内容をまとめていく発問」は、文章中に答えの記述がそのまま書いているものではないが、発問によって、答えにかかわる一定の視点を与えて文章を振り返らせ、発問と関連のある文章中の記述をまとめさせる発問である。

「課題に対する自分の考えをもつ発問」は、課題解決のための中心発問として位置付ける。生徒は、「抜き出して答える発問」、「内容をまとめていく発問」によって文章を読み取り、「課題に対する自分の考えをもつ発問」を受けて、それまでの学習での内容理解を基に、課題に対する答えとして文章中にある文や言葉を根拠としての自分の考えを書く。その考えを、集団思考の場をとおした再考によって、筋道立てられたものにまとめていくこととなる。

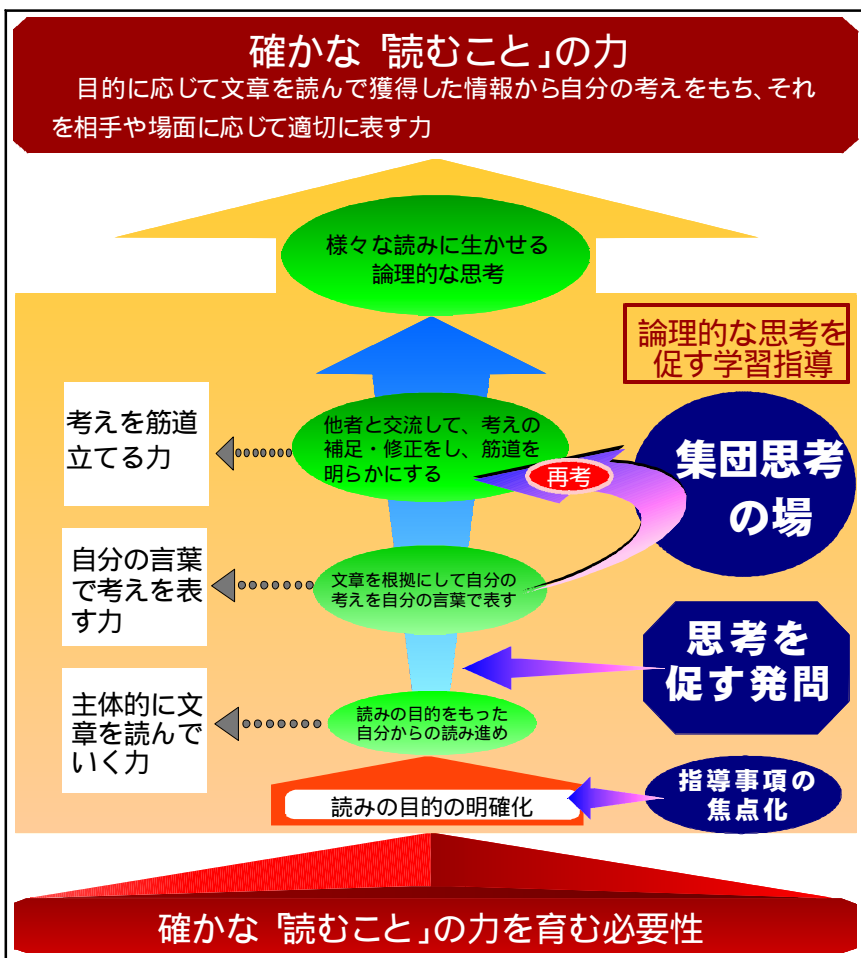
### (3) 論理的な思考を促す学習指導の展開とは

本研究では「論理的な思考」を「筋道がとあって分かりやすい考えを表すこと」とし、生徒それぞれの考えを集団思考の場で交流し、再びそれぞれが思考していくことが、論理的な思考を促すことに最も有効であると思う。

思考を促す発問によって導き出された考えは、その生徒の個人思考によるものである。学級な

どの集団で個々の考えを、意見交換や文書回覧という集団思考の場で交流させることで、生徒は自ら気付いたり、他者に指摘を受けたりする。そこで自分の読みを確認したり、不足な点を他者の考えから補ったり、新たな発見をしたりすることを経て個人思考が再び行われる。この個人による再考が、それぞれの考えをより筋道のとった分かりやすいものにしていくのである。

そこで本研究においては、まず「課題に対する自分の考えをもつ発問」によって個人思考を十分に行わせる。そして、集団思考の場で意見発表や回覧・書込みといった交流を行い、その後個人での再考によるまとめをさせる場を設定して、生徒が思考の変容を自覚できるような学習活動を展開していくことが、論理的な思考を促す学習指導の展開であるとする。



【図1】 確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本構想図

(4) 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本構想図

これまで述べてきた中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本的な考え方に基づき、まとめた基本構想図が【図1】である。

3 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案の作成

(1) 一教材の学習指導の展開に関する試案

論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案及び試案作成の手順は、第1年次の報告において示した。第2年次では、第1年次のものに検討を加え、一教材の学習指導を展開することによって、論理的な思考を促し、確かな「読むこと」の力を育てていくことを考え示すこととした。

ただし、学習指導要領の指導事項を示した年間指導計画の作成及び単元指導計画、読みの目的の明確化については、第1年次で示した一教材一指導事項（言語事項は別）、さらにその指導事項を基に教材の目標、読みの目的を設定する方法で行うことは変わらない。ここでは、年間指導計画によって指導事項を基にした読みの目的がすでに明確にされており、実際に授業するに当たっての試案を示すこととする。

(2) 一教材の学習指導の展開に関する試案の作成

一教材の学習指導を、読みの目的をもつ段階、文章内容を確認する段階、自分の考えをまとめていく段階の三つに分けて展開していくこととし、その試案作成を次頁【表3】のような手順で行った。ここでは、各段階ごとの具体的な方法と留意すべき事項を示していく。

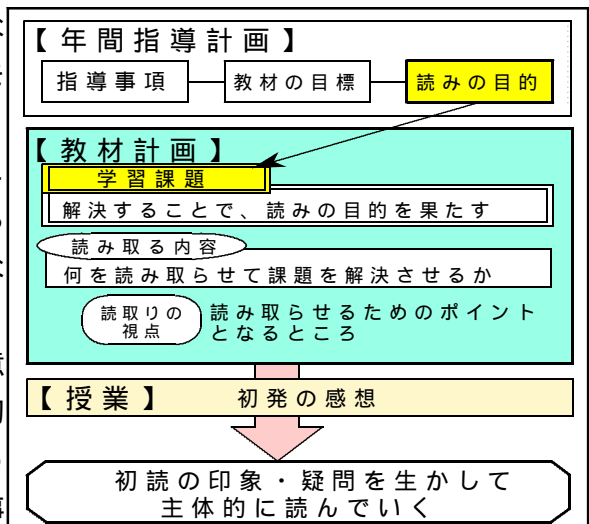
【表3】—教材の学習指導の展開に関する試案作成の手順

読みの目的をもつ段階	「読みの目的」を基に「学習課題」を設定する
	学習課題を解決するための「読み取る内容」を設定する
	読み取るためのポイントとなる「読取りの視点」を設定する
文章内容を確認する段階	学習課題を基に「課題に対する自分の考えもつ発問」を設定する
	教材分析によって読取りを構想する
	構想によって作成した発問を、抜き出して答える発問、内容をまとめていく発問に分類する
自分の考えをまとめる段階	分類した発問を、順序やつながりを工夫して構成を整える
	再考において、最終的にまとめる字数と評価の観点を設定する
	「個人 集団 個人」の思考過程が一目で分かるような学習プリントを作成する（または、ノート指導の計画をしておく）
	集団思考となる交流の場を、発表が書込みか、「グループごと 全体」にするか、すぐに「全体」であるか、といったことを設定する

ア 読みの目的をもつ段階

【図2】にあるように、年間指導計画によって「読みの目的」はすでに設定されているが、教材の指導計画を作成する際には、生徒が解決することで「読みの目的」が果たせるような「学習課題」を設定する。ここでは「読取り＝課題解決」ではなく、視点に沿って読取りを行い、それを基に課題を解決していく学習活動となるようにする。さらに、「学習課題を解決するために、文章から読み取ることは何か」という、「読み取る内容」と、「読み取るために、文章のどんなところに着目するのか」となる「読取りの視点」も併せて設定する。

実際の授業では、生徒に主体的に読もうとする意識をもたせるために、文章の種類にかかわらず「初発の感想」を書かせて、興味を示したり疑問に残ったところが、読取りの視点となるように指導者の事前の読みをしておくことが重要である。

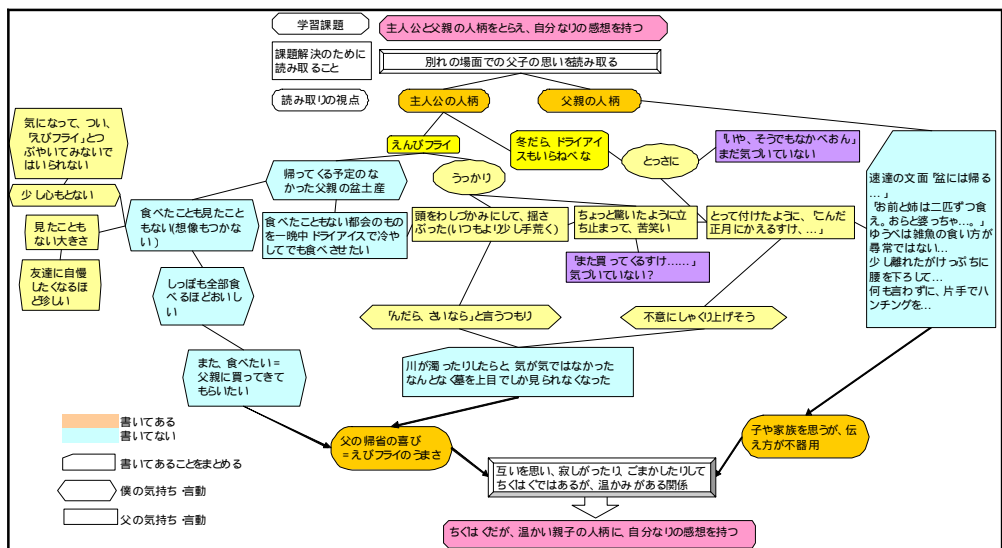


【図2】読みの目的を学習課題として設定

イ 文章内容を確認する段階

【図3】は、教材分析による読取りの構想を示したものである。

文章内容を確認する段階で行う学習活動は、課題解決をするために文章を読み取ることである。読みの目的をもつ段階で設定した学習課題は、課題に対する自分の考えをもつ発問への応答で解決させる。



【図3】教材分析による読取りの構想（「益土産」光村図書2年）



課題に対する自分の考えをもつ発問は、文章に書いて答える発問であり、学習活動の中心発問である。これに答えることが課題解決となることと、今までの発問によって読み取ったことが課題解決につながることを意識させる。

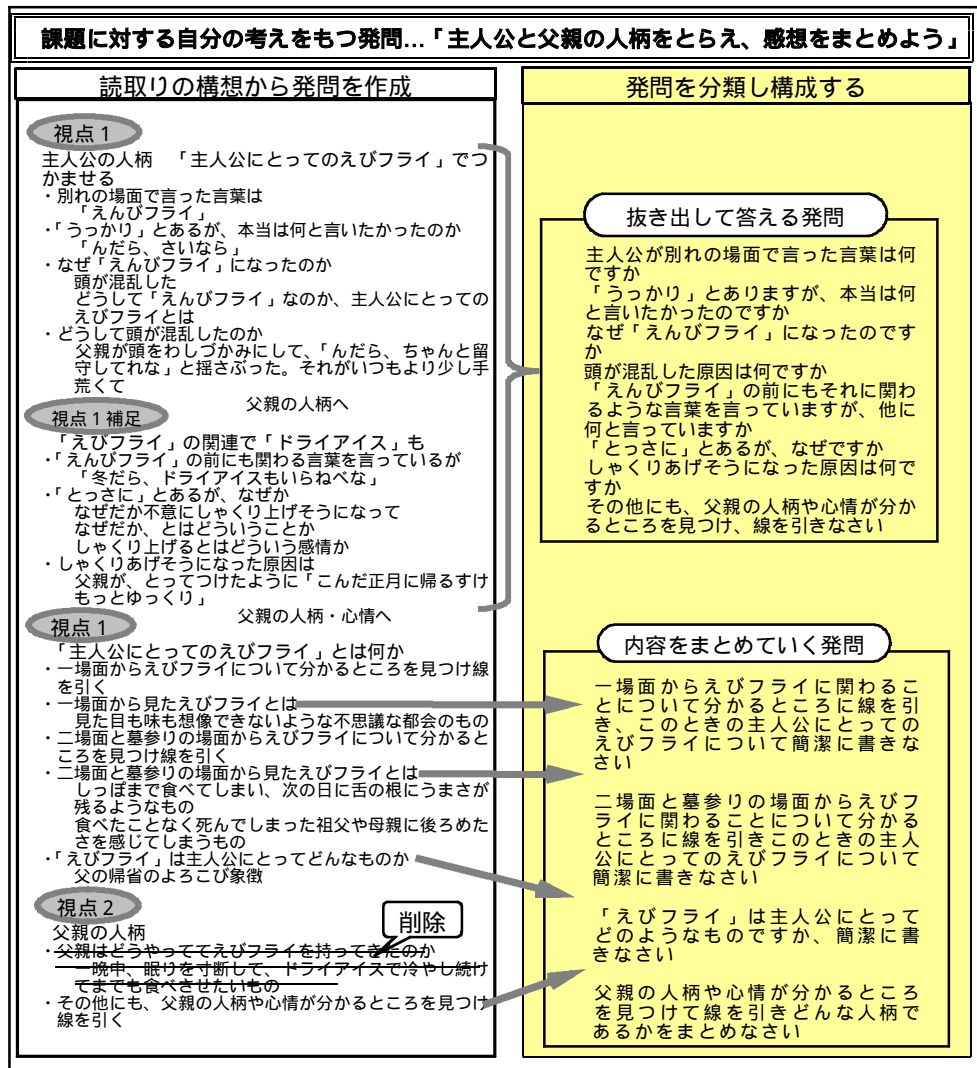
学習課題を解決するための「読み取る内容」は、併せて設定した「読取りの視点」を基に、教材分析によって読取りをできるだけ詳細に構想していく。指導者は読取りを構想していく中で、「抜き出して答えさせるのか」、「書いていることをまとめて答えさせるのか」という発問を作成し、分類していく。これは、抜き出して答える平易なものから、書いていることをまとめていくものへと発問の難易度を高めていくことによって、生徒の思考を促していくことが必要であると考えたからである。

抜き出して答える発問は、教科書に線を引いたり、ノートに書いた表や学習プリントの( )に書き込んだりして、次の学習活動(実際に思考をしていくための)に備えるものとする。

内容をまとめていく発問は、まとめるために考える時間を確保し、ノートや学習プリントに書いてから答えるものになるよう工夫する。

この二つの発問を分類しながらも、「これらの発問の答えがどのように課題に対する自分の考えをもつ発問につながっていくのか」ということを吟味しながら、発問の仕方や順番といった構成を工夫していく。

以上、文章内容を確認する段階において、課題に対する自分の考えをもつ発問に至るまでの二つの発問を分類し、構成



【図4】発問の分類と構成(「盆土産」光村図書2年)

していく様子を表したものが【図4】である。

ウ 自分の考えをまとめていく段階

自分の考えをまとめていく段階では、課題に対する自分の考えをもつ発問によって、「個人 集団 個人」の思考場面を展開していく。それぞれの思考場面における留意事項は次頁【表4】に示



すとおりのである。

【表4】自分の考えをまとめる段階の思考場面での留意事項

はじめに課題に対する自分の考えもつ発問を受けて書くときは、学習プリントの字数や分量を規定しない自由記述の部分に行わせる。ここでは、可能な限り自分の考えの根拠となる文章中の叙述をメモしておくように指示する。

意見交流で発表するときは、メモをそのまま読むのではなく、メモを基

に相手に分かりやすく伝えることを意識して行わせる。聞くときは、相手の発表を全て書き写すのではなく、付け加えるのに必要だと思われる言葉をメモするように指示する。

また、発表ではなくグループ内で回覧をして、相手の考えに書込みをしたり、相手の記述の中で参考になる部分を自分の考えに補足したりする活動を行う場合もある。意見交流では中々発言がない場合でも、書くことで自分の考えを伝えることによって集団思考となることもあるからである。

そして、「自分の考えをまとめる」という再考を行う活動では、最終的に学習プリントのマス目による字数制限をした部分に書かせることで、読み手に「論理的に」伝えることを意識してまとめさせる。まとめを書くときは、決められた字数を超えないことと、考えと根拠を分かりやすく伝えるために、学習した文章を「読んだことのない人にも分かるように」注意して書くことを指示する。

以上のことから、一教材の学習指導の展開に関する試案を【図5】に示す。なお、それぞれの段階において講ずる手だて

		留意事項
個人思考	個人思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く時間を十分確保するが、その場で書けない生徒には集団思考の際に他の生徒の発表を参考にして書くように指導する</li> <li>自分の考えを必ず明確にさせる（～だと思ふ、～と考える、など）</li> <li>自分の考えの根拠となる叙述やその箇所をメモ（何頁、何行目など）させる</li> </ul>
	集団思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ討議の場合は、グループ全員の発表を受けて、自分の考えに不足していた考えやその根拠となった叙述を赤ペン等で書き込むようにする（自分の考えに補足したことを後になっても確認できるようにする）</li> <li>グループの考えをまとめて全体発表する場合は、指導者が指名して全体の意見交流での発表に臨むように意識づける</li> <li>グループ内で回し読みをさせ、同意・反対する点とその理由の書込や、考えの補足となる書込をさせる場合もある</li> </ul>
個人思考	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎の発表を受けて、指導者は出された考えのポイントを板書してそれぞれの違いなどを分かるようにする</li> <li>出された考えを基に、一つにまとめたり、矛盾した考えを削除したりするとともに、再考の際に全員が使用する表現や考えがあれば確認する</li> </ul>
個人思考	個人思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>字数を制限し、「読んだことのない人に伝える」つもりでまとめることを意識させる</li> <li>課題に対する自分の考え、考えの基となる根拠、集団思考で補足した内容が必ず入るように意識して書かせる</li> <li>机間指導の際、上の条件に沿っていないことがないように、特に指導を必要とする者への個別指導を行う</li> </ul>

段階	学習活動	形態	主な手だて	留意点	
導入	新出漢字・語句の確認 全文通読 初発の感想 課題設定	一斉	<b>読みの目的をもたせる</b> 読取りを基に課題解決することを確認 学習課題解決の読取りの視点を、生徒の初発の感想を基に設定する	長い小説等は、小教材設定での読前活動に大筋を把握させる	
		個人			<b>思考を促す発問の構成</b> 抜き出して答える発問 ・文章から語句を抜き出させる ・文章の該当箇所に線を引かせる 内容をまとめていく発問 ・該当段落を要約させる ・心情や情景をまとめさせる
		個人			課題に対する自分の考えをもつ発問 読み取ったことを基に文章に対する自分なりの考えを書かせる
展開	文章の読み取り  課題解決 (1)自分で書く 個人思考  (2)交流 集団思考  (3)自分でまとめる 個人思考の再考	一斉	発表または回覧・書込みによる交流 ・グループ毎による交流 ・全体での交流  課題解決のまとめ 字数制限したプリントに、最終的な自分の考えをまとめさせる  <b>思考場面の設定</b>	段落・場面ごとく読むのではなく、文章全体を把握し、根拠を自分なりに書き出して交流に臨む  発表の中での他者からの指摘や、他者の発表を聞いて自分の考えの補足や修正をさせる  考えと根拠、読んでいる人にも伝えることを意識して順序立ててまとめる	
		個人			
		集団			
終末	教材のまとめ	一斉			

【図5】論理的な思考を促す一教材の学習指導の展開に関する試案

と、確かな「読むこと」の力を育む力の構成要素との関係は【表5】のとおりである。

【表5】1教材の段階と実際の手だて及び構成要素との関係

段 階	実際の手だて	手だての内容	構成要素
読みの目的をもつ段階	読みの目的をもたせる	・読みの目的である学習課題を解決するための読み取りの視点を初発の感想を基に設定する	主体的に文章を読んでいく力
文章内容を確認する段階	思考を促す発問の構成	・指導者による読み（教材研究）によって発問指示事項を検討し順番や方法を工夫する	自分の言葉で考えを表す力
自分の考えをまとめていく段階	「個人 集団 個人」思考場面の設定	・集団思考の場を設定し、個人での再考によるまとめ方を検討する	考えを筋道立てる力

#### 4 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践計画と検証計画

##### (1) 授業実践計画

授業実践の計画は以下の手順で行う。なお、実践の内容は【表6】に示すとおりである。

##### ア 指導計画の作成

指導計画の作成に当たっては、中心となる指導事項と読みの目的を基に学習課題を設定し、それを解決するための思考を促す発問の構成による読み取りや思考場面の設定を行う。

##### イ 授業実践

論理的な思考を促す学習指導の展開に関する一教材の具体的な指導計画に基づき、授業実践を行う。

##### ウ 分析と考察

【表7】に示した検証計画を基に、手だてに関わる分析と考察を行う。

【表6】授業実践の内容

教 材	実践 1		実践 2	
	説明的文章		文学的文章	
学 年	第 2 学年	第 1 学年	第 2 学年	第 1 学年
期 間	5月30日～6月8日	6月14日～6月27日	8月23日～9月1日	9月5日～9月13日
時 数	6時間	4時間	4時間	4時間
単元名 「教材名」 (光村図書)	2 真実を探る 「文化を伝える チンパンジー」	2 視野を広げる 「クジラたちの声」	3 人間のきずな 「盆土産」	3 心の歩み 「大人になれな かった弟たちに…」

##### (2) 検証計画

授業実践をとおして中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育むための手だての有効性を見るために、【表7】のような検証計画を作成し、実践結果の分析と考察を行う。

【表7】検証計画

検証項目	検証内容	対象	検証方法	処理・解釈の方法
確かな「読むこと」の力を育むために必要な力の育成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に文章を読んでいく力</li> <li>・自分の言葉で考えを表す力</li> <li>・考えを筋道立てる力</li> </ul>	生徒	テスト法(事前・事後)	・結果を基にその正答率から分析・考察する
			観察法(発言・行動の様子やノート・学習プリントへの記述)	・授業中の観察や抽出生徒の記述したものを分析して、確かな「読むこと」の力の育まれた様子を考察する

5 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践と結果の分析と考察

(1) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践の概要

本研究では論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践について、一つは実践1として説明的な文章の授業を、もう一つは実践2として文学的な文章の授業を、1学年と2学年でそれぞれ行った。

ここでは、二種類の文章における論理的な思考を促す学習指導の展開の実践のうち、2学年における説明的な文章の実践例と、1学年における文学的な文章の実践例について、その概要を示していく。

ア 説明的な文章の授業実践の概要

(ア) 指導計画の作成

論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案を基にして、2学年における説明的な文章の教材「文化を伝えるチンパンジー」の指導計画を作成した。【図6】は単位時間毎の学習活動を主とした概要であり、段階毎の具体的な手だての計画と授業実践の概要は、それぞれの段階に沿って示していく。

なお、教材全体の指導計画と単位時間毎の指導案については、補充資料に示す。

段階	時数	学習活動	講ずる手だて
導入	第一時	1 新出漢字・音訓を板書して確認する 2 授業者が全文を範読し生徒には黙読をさせる 3 初発の感想をプリントの項目に従って記入させる	手だて
	第二時	4 生徒が興味を持った部分から課題とそれのための読み取る内容・視点を確認する 5 第1～4段落を読んで、なぜチンパンジーに擬人法で表現しているかを考えさせる 6 全文を一斉に微音読させる	
展開	第三時	7 実験・観察から得られた事実とそれに基づく筆者の考察を表す段落を指摘させ、段落構成を確認させる	手だて 抜き出して答える発問
	第四時	8 文章内容を確認させる (1) 前半の事実を文章を基に図式化させ、それに伴う考察の内容を要約させる	内容をまとめ ていく発問
	第五時	(2) 後半の実験・観察をまとめさせ、それに伴う考察の内容を要約させる 9 「チンパンジーの文化とその継承の仕方」から自分の考えたことを叙述を根拠に書かせる	課題に対する 自分の考えを もつ発問 個人
閉める	第六時	10 交流によって多様な考えにふれさせる 11 交流を受けてのまとめをさせる	グループ 再考 手だて
	終末	12 教材のまとめ	

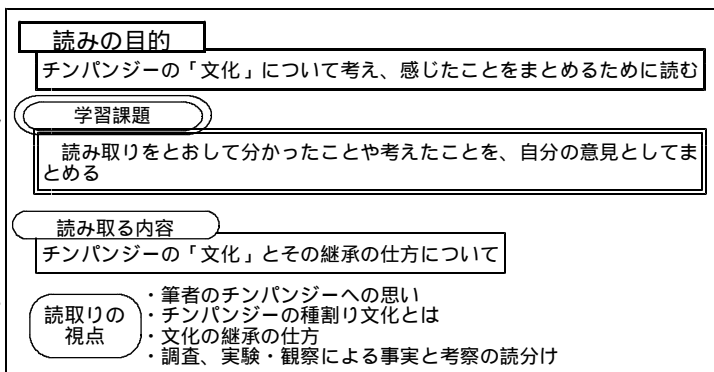
【図6】指導計画の概要(文化を伝えるチンパンジー 光村図書2年)

(イ) 説明的な文章における授業実践の概要

説明的な文章における論理的な思考を促す学習指導の展開に関する、段階毎における手だてにかかわる計画と授業実践の概要を示す。

読みの目的をもつ段階 - 手だて 「読みの目的をもたせる」 -

【図7】は、この教材の読みの目的を受けて、「チンパンジーの『文化』とは何か」について読取りをさせ、調査、実験・観察を基にした筆者の考察を読み取った上で、自分の感じたことや考えをまとめさせることを学習課題として取り組ませることにしたものである。筆者の考察にはチンパンジーの「文化」だけでなく、その継承と方法についても記されており、読取りをとおしてチンパンジー社会と人間社会との共通点を示した筆者の意見に対して、生徒がどのように自分の考えをまとめめるかをねらいとした。



【図7】読みの目的を基に学習課題を設定する

次頁【図8】は、学習活動3「初発の感想をプリントの項目に従って記入させる」を受けて、生徒の初発の感想を読取りの視点毎に分類し、学習活動4「生徒が興味を持った部

分から課題とそのための読み取る内容・視点を確認する」で実際に板書で示した様子を表したものである。初発の感想は「印象に残った内容」などの三つの観点で記述ようになってい

生徒は初読の段階で、すでにおおむねの内容は読み取れているようであり、事前に設定した「読取りの視点」にかかわる部分に着目した記述も多数あった。それぞれ記述した観点は違っているが、読取りの四つの視点にかかわる項目に分類した。そして感想発表の時に、視点毎にまとめて発表してから板書し、そこから学習課題と読み取る内容を板書し確認させることで、生徒はこの教材で「何を読み取って、それをどうするのか」という目的をもって、読取りに臨んでいた。

文章内容を確認する段階

- 手だて 「思考を促す発問の構成」 - 【図8】生徒の感想を基に読取りの視点を設定

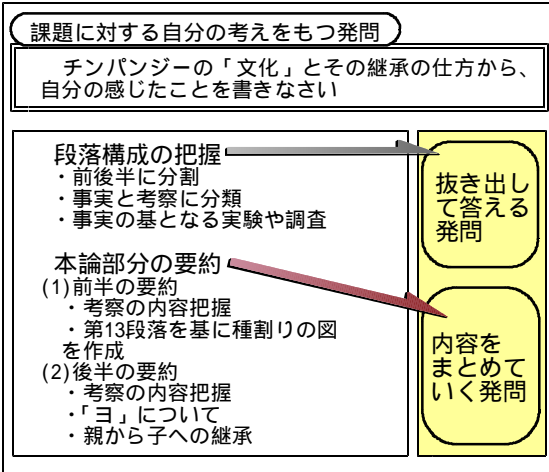
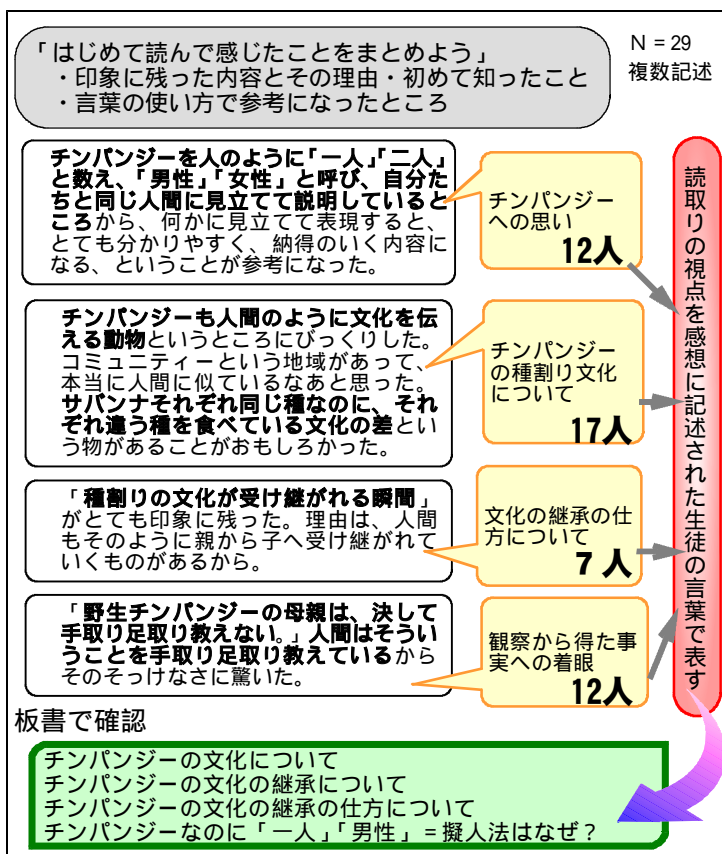
本教材は、調査や実験・観察から得られた事実の段落と、それに基づく筆者の考察の段落で文章が展開されている。

学習課題を解決するための「課題に対する自分の考えをもつ発問」は、課題設定の時点でできあがっているので、そのための読取りによる文章内容の確認をさせる発問を構成していかなければならない。そこで、はじめに「抜き出して答える発問」によって段落構成を確認させて、中心部分である本論の段落を「内容をまとめていく発問」によって要約させながら読取りを行わせる。読取りにおいては、筆者の考察を基に前半部と後半部に分け、それぞれの考察がどのような事実から導き出されたのか、についてまとめていく学習活動となり、【図9】のように発問を構成していった。

なお、発問とその応答を中心にした実践の概要は【資料1 - 】のとおりである。

【資料1 - 】説明的文章における授業実践の概要 「文章内容を確認する段階」

学習活動	指導者による指示・発問	生徒の反応	留意事項・補助発問など
7 本論の段落構成を理解する	<p>全体の段落構成をつかもう</p> <p>抜き出して答える発問</p> <p>筆者のフィールドワークと実験の記録を表す段落をデータや実験のを参考にして前半と後半に分けると、前半最後の段落はどこか</p>	<p>第14段落</p>	<p>理由</p> <p>前半は種割りについて、後半は野外実験場の観察について書かれてあるから</p>



【図9】発問の構成

	<p>前半の考察（筆者の考えを表す）をしている段落はどれか          前半の考察の基になったデータを表す段落はどこからどこまでか          後半の考察をしている段落はどこか          後半の実験・観察と、そこから分かった事実の段落はどこか</p>	<p>第14段落          第7～第13段落          第27段落          実験・観察…第15～18段落と第25・26段落          事実…第19・20段落と第26段落</p>	<p>補助発問          考察とは筆者の考えであるから「～だろ」「～考えられる」などが使われる</p>
<p>8 本論前半の考察内容及び考察の根拠となるデータに基づく事実を把握する</p>	<p>内容をまとめていく発問          前半の考察を行っている第14段落は、何を考察しているか、内容をノートに1文で書きなさい</p> <p>この考察の根拠となる、最も重要な段落は何段落か          コミュニティーごとの種割りの様子を図を、第13段落と教科書の図や表を基に完成させなさい</p>	<p>本論の内容を、事実と考察から読み取ろう</p> <p>コミュニティーごとに、どの種を割って食べるかということが、文化の違いとして決まっている          第13段落          (省略)</p>	<p>第22～24段落は「女性」の習性から導き出した「ヨ」に対する推測であるが、意向の段落においても観察が続いており、考察の段落には入れなかった</p> <p>第14段落にあるの4文の中で最も重要なものを指摘させたあと、ノートに記述させる</p>
<p>9 本論後半の考察内容及び実験内容を把握する</p>	<p>後半の考察を行っている第27段落は、何を考察しているか、内容をノートに1文で書きなさい</p>	<p>コミュニティーを移動する「女性」が、文化をほかのコミュニティーに伝え、親から子へと伝わっていく過程で、それまでの文化とは少し違う文化が生まれていく文化が生まれ伝わっていく過程          (省略)</p>	<p>第14段落の「種が手にはいるのに…」に着目させ、「種割り表」の説明をしている段落を見つけさせる</p>
<p>10 課題に対する自分の考えを、叙述を根拠にまとめる</p>	<p>後半の実験で、筆者が知ろうとしていることは何か          実験・観察の様子をまとめるので( )に当てはまる言葉や文を入れて、完成させなさい</p> <p>課題に対する自分の考えをもつ発問</p>	<p>個人思考の記述</p>	<p>第27段落では、最後の文を基にして前の2文から必要な言葉を補ってまとめさせた</p>
<p>《授業の様子》          段落構成を理解する活動では、全段落番号を書き出し、抜き出して答える発問を受けて段落番号の下に書かれている内容をメモして理解していた          発問では段落の文章を図で表す活動を行ったが、38頁の図と39頁の種割り表を参考にして一つの図にまとめることで、前半部の事実関係を理解していた</p>			

自分の考えをまとめる段階 - 手だて 「個人 集団 個人思考の場面の設定」 -

個人の再考場面でまとめる字数は、本文中からの引用や自分の考えをより具体的に表せるように200字に設定した。また、集団思考場面の具体的な計画は、課題に対する自分の考えをもつ発問を受けてのプリントへの記述によって方法が変わってくることから、生徒の記述を読んだ後にグループ毎に行ってからかすぐに全体で行うか、発表形式か回覧・書込み形式かを定めることとした。

なお、思考場面毎の指導者による指示・発問と集団思考の場面での板書内容による実践の概要を

【資料1 - 】に示す。

【資料1 - 】説明的文章における授業実践の概要 「自分の考えをまとめる段階」


学習活動	指導者による指示・発問	指示・発問の意図
<p>8 課題に対する自分の考えを、叙述を根拠にまとめる  <b>個人思考</b></p>	<p>課題に対する自分の考えをもつ発問          「チンパンジーの「文化」とその継承の仕方」の読み取りを終えての、自分の感じたことを叙述を根拠に書きなさい</p>	
<p>9 他者の考えから自分の考えに加筆・修正する  <b>集団思考</b></p>	<p>指示(1) 指名発表 ポイントを板書          「チンパンジーと人間は似ているか生き物か」</p> <p>・なぜそのような考えになったのか根拠を付け足して発表          ・自分の考えに近いものに挙手          ・参考にしたい考えをペンで書き込む</p>	<p>「どんなところが似ている（似ていない）と感じるのか」、「どのように感じた根拠は、文章のどの部分からなのか」といったことを意図的に数名を指名して発表させて、その一部を板書にメモした</p>




10 交流をとおして付け加えたことを含めて自分の意見をまとめる

個人による再考

板書内容



板書を基に、自分のプリントにメモとして残し、考えに足りなかったところを補う



《授業の様子》

読取りを終えた後、自分の感じたことを個人思考による記述させた時間が10分弱しかなかったために、自分の考えの根拠となる叙述を書き出したりメモしたりすることができなかった。そこで集団思考での指名発表で、「どこからそう感じたのか？」と質問することで考えの根拠を示させた

個人思考による記述を見ると、「筆者の書いているとおり、チンパンジーと人間は似ている生き物だ」と感じた生徒と、文化の継承の仕方について「人間とは違う生き物だ」とする生徒に別れたことから、それぞれの立場に分けて板書し、板書メモを手がかりとして個人思考の再考を行わせた

## イ 文学的な文章における授業実践の概要

### (F) 指導計画の作成

論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案を基にして、1学年における文学的な文章の教材「大人になれなかった弟たちに……」の指導計画を作成した。前述の説明的な文章と同じように【図10】は単位時間毎の学習活動を主とした概要であり、段階毎の手だてにかかわる計画と授業実践の概要は、説明的な文章の概要と同様に段階に沿って示していく。

なお、教材全体の指導計画と単位時間毎の指導案についても、説明的な文章と同様に補充資料に示す。

段階	職	学習活動	講ずる手だて
導入	第一時	1 新出漢字・音訓を板書して確認する	手だて
		2 授業者が全文を範読し生徒には黙読をさせる	
		3 戦時中の特別な意味を持つ語句の意味を確認する	
		4 初発の感想をプリントの項目に従って記入させる	
展開	第二時	5 生徒が興味を持った部分から課題とそのための読み取る内容・視点を確認する	手だて 抜き出して答える発問
		6 母の様子と心情を表す表現を指摘し心情をとらえさせる	
		7 弟の死に対する当時と現在の僕の思いをとらえさせる	
		8 「チンパンジーの文化とその継承の仕方」から自分の考えたことを叙述を根拠に書かせる	
閉	第三時	9 交流によって多様な考えにふれさせる	内容をまとめていく発問 個人
		10 交流を受けてのまとめをさせる	
終末	第四時	11 教材のまとめ	課題に対する自分の考えをもつ発問 個人 → 再考 集団 手だて

【図10】指導計画の概要(大人になれなかった弟たちに…… 光村図書1年)

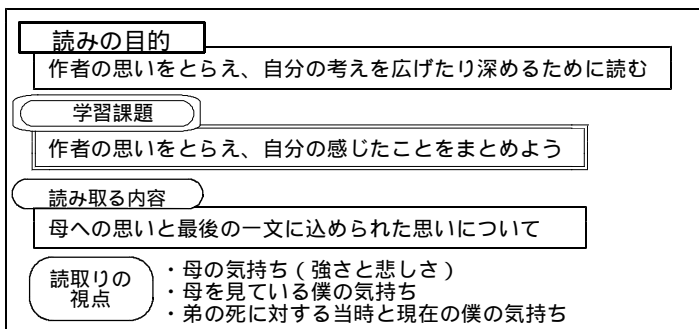
### (1) 文学的な文章における授業実践の概要

文学的な文章における、段階毎における手だてにかかわる計画と授業実践の概要を示す。

読みの目的をもつ段階 - 手だて 「読みの目的をもたせる」 -

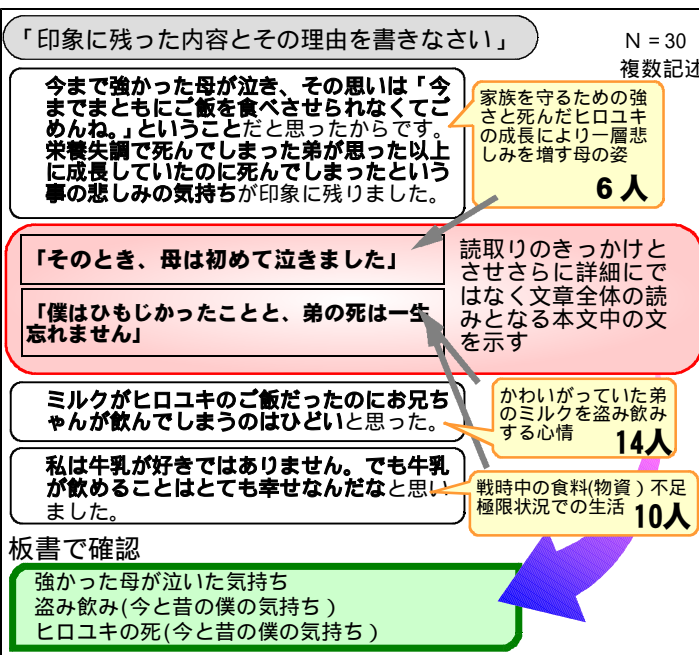
次頁【図11】は、この教材の読みの目的を受けて、作品に込められた作者の思いについて読取りをさせ、その上で自分の感じたことや考えをまとめさせることを学習課題として取り組ませることにしたものを表している。作者の思いは、文章全体にわたっているのはいままでのまな

いことだが、今回は特に母親の強さと弟の死による一層の悲しさと、最後の一文「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。」に込められた作者の思いを読取り、感じたことをまとめることで、生徒の考えを広げ深めていくことをねらいとした。



【図11】読みの目的を基に学習課題を設定する

【図12】は、学習活動4「初発の感想をプリントの項目に従って記入させる」を受けて、生徒の初発の感想を読取りの視点毎に分類し、学習活動5「生徒が興味を持った部分から課題とそのための読み取る内容・視点を確認する」で実際に板書で示した様子を表したものである。初発の感想は「印象に残った内容」と観点を一つにしぼって記述するようにした。



【図12】生徒の感想を基に読取りの視点を設定

感想の多くは、赤ん坊である弟「ヒロユキ」の死や、戦時中という極限状態での生活に対する第三者的な哀れみであり、予想されたものであった。さらに、母親の、家族を守るための強さと、栄養失調であっても棺に入らない程成長していた「ヒロユキ」を見て初めて弱さを見せる

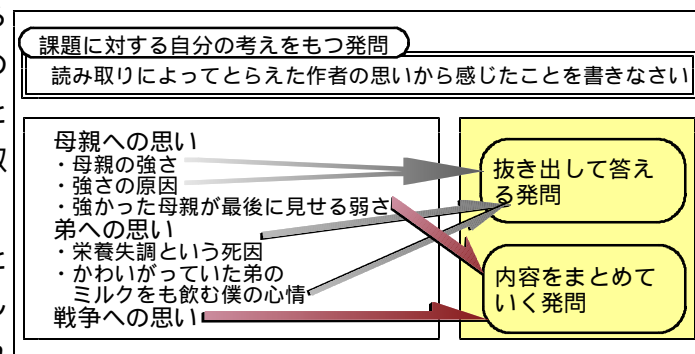
【図12】生徒の感想を基に読取りの視点を設定点に注目している生徒もいた。そこで、読取りの視点を与えるだけでなく、視点にかかわる文章中の二文に注目させ、作者が記した意図やその効果までもとらえさせることができればと思い、それぞれの文に込められた作者の思いを読み取ることで、そのための視点というかたちで板書して確認した。生徒は具体的な文を手がかりに、視点に沿って読取りに臨んでいた。

文章内容を確認する段階 - 手だて「思考を促す発問の構成」 -

本教材で作者が最も訴えたいことは、実体験をとおした戦争へ非難であり、平和への願いである。

学習課題を解決するための「課題に対する自分の考えをもつ発問」は、課題設定の時点でできあがっているので、そのための読取りによる文章内容の確認を、母親への思いと、弟の栄養失調による死という衝撃的な出来事と戦時中の極限状態の生活の悲惨さを読み取らせる発問を構成していく。

【図13】に表したように、読取りの柱として二文を取り上げているので、抜き出して答える発問、内容をまとめる発問をそれぞれ母親への思いと弟の死に対する思いと



【図13】発問の構成



して構成し、文章から受ける作者の思いを読み取っていく。

なお、発問とその応答を中心にした実践の概要は【資料2 - 1】のとおりである。

【資料2 - 1】文学的文章における授業実践の概要 「文章内容を確認する段階」

学習活動	指導者による指示・発問	生徒の反応	留意事項・補助発問など
6 母の様子と心情を表す表現を指摘し心情をとらえる	<p>「そのとき、母は初めて泣きました」について</p> <p>抜き出して答える発問 「母は初めて泣きました」とあるが、どんなときか</p> <p>死んだときには何と言ったのか 「幸せだった」とはなぜか</p> <p>他に母の強さが分かるところに線を引きなさい</p> <p>なぜ、こんなにも強くしていなければならないのか</p> <p>内容をまとめていく発問 「ヒロユキは幸せだった」と母が言ったのはどんな気持ちからか</p> <p>今まで強かった母が泣いたのはどんな気持ちからだったのか</p>	<p>「棺が小さすぎて入らなかった」とき 「ヒロユキは幸せだった」 「母と...もっとかわいそうだった」</p> <p>・「屋に出されるご飯を僕たちに残して...」 ・「自分の着物を持っていき...」 ・「僕に帰ろうと言って...」 ・「僕たちに食べさせて自分は...」 ・「僕たち子供を必死で守って」 ・「父は戦争へ行行って留守」</p> <p>・無理をして言っている ・家族を守るために我慢している ・もっと可哀想な死に方を想像して悲しみを抑えようとしている ・栄養失調で死んだのに大きくなっていてうれしい ・守ってあげられれば(食べ物があれば)もっと大きくなっていたのに(悔しい)</p>	<p>教科書には線を引かせ、学習プリントには大事な言葉を記述させた</p> <p>発表は箇条書で板書し、まとめた文章にはしない</p> <p>「うれしい」というとらえが多かったので、栄養失調で死んでしまった事実や、「もしも戦争がなければ」といったことを補助発問した</p>
7 弟の死に対する当時と現在の僕の思いをとらえる	<p>「僕はひもじかったことと、弟の死は一生涯忘れません」について</p> <p>抜き出して答える発問 ひもじかった様子が分かるところに線を引きなさい</p> <p>僕にとって弟のミルクはどんなものか 弟にとっての食べ物とは何か</p> <p>内容をまとめていく発問 当時の僕は盗み飲みしたことをどう思っていたのか</p> <p>大人になった僕 = 作者はどう思っているのか</p>	<p>「食べ物が十分になかった」 「甘いものは全然なかった」 「よだれが出るほど飲みたいもの」 ・おもゆ・やぎのミルク・配給のミルク</p> <p>・後悔 ・ごめんなさいと謝りたい ・僕のせいで死なせてしまった ・戦争がなければひもじい思いをしなかった ・戦争がなければ弟は死ななくてすんだ</p> <p>個人思考の記述</p>	<p>単に、兄である「僕」を悪者にとらえている生徒も多く、挿絵やワークを補助資料として、当時の極限的な生活状況を提示した</p> <p>ミルクを飲んでしまったことへの罪悪感だけでなく、兄として守るどころか、それに反する行為をしてしまい自己を責める心情にもふれさせた</p>
8 課題に対する自分の考えを、叙述を根拠にまとめる	<p>課題に対する自分の考えをもつ発問</p>	<p>個人思考の記述</p>	<p>応答は平板なもので終わったが、その後には後書きを朗読し、作者の戦争を憎み、平和を願う気持ちを確認した</p>
<p>《授業の様子》 本文中にラインを引いてからプリントに箇条書きしているの、内容をまとめていく発問を受けても、プリントだけでなく叙述に戻って発問の答えを導き出していた 発問に対してひらめきや直感だけで答える生徒がいるときは、「教科書にある言葉を使って」と再度叙述を振り返らせて、叙述に即して思考し、答えを導き出すことを促した</p>			

自分の考えをまとめる段階 - 手だて 「個人 集団 個人思考の場面の設定」 -

個人の再考場面でまとめる字数は、本文中からの引用や自分の考えをより具体的に表せるように200字に設定した。集団思考場面の具体的な計画は、説明的な文章の授業実践と同じで、生徒の記述を読んだ後に決めた。

なお、思考場面毎の指導者による指示・発問と集団思考の場面での板書内容による実践の概要を【資料2 - 2】に示す。

【資料2 - 2】文学的文章における授業実践の概要 「自分の考えをまとめる段階」

学習活動	指導者による指示・発問	指示・発問の意図
8 課題に対する自分の考えを、叙述を根拠にまとめる <b>個人思考</b>	<p>課題に対する自分の考えをもつ発問 読み取りによってとらえた作者の思いから感じたことを、文章中の叙述を根拠に書きなさい</p>	

9 他者の考えから自分の考えに加筆・修正する

集団思考

指示(1) 自分のものを見直し  
作者のどんな思いからそう感じたのか  
(根拠)を具体的に付け加えて書く

指示(2) グループ内で回し読み・書込

板書内容

書き込みのポイント

- ・すべてペンで書き込む
- ・自分の考えと同じ
- ・自分は気づかなかった
- 自分のプリントにも書き込む
- ・一言コメント(感想・質問)

10 交流をとおして付け加えたことを含めて自分の意見をまとめる

個人による再考

指示(3) マス目部分(200字)にまとめる


「作品を読んでいない人」にも分かるように書く

- できるだけ教科書にある言葉をつかって具体的に書く
- ・作者の から と感じた
- ・作者の思いか、自分の感じたこと(考え)かを区別して!

発表を受けて考えの基となった根拠を聞くのではなく、集団思考の前に、根拠を記述していない生徒に追加記述をさせた

・意見発表の時には話しづらい生徒であっても、自分の意思表示ができる

・他者の考えから補足するときにも、書いたものから直接抜粋できる



《授業の様子》  
集団思考の場面に生徒の発言による意見発表形式から回覧して同意や発見といった意志を線や意見として書き込ませる形式で行った。生徒はグループ内で会話をしながらも、書き込むことによってお互いの考えに賛同したり、疑問をもったりしたことを書き込んでいた。また、自分にはなかった考えを他者のプリントから書き写して、自分の考えに補足していた

## (2) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた実践結果の分析と考察

確かな「読むこと」の力を育むために必要な力の育成状況についての検証は、8頁【表7】の検証計画に従って二つの方法によって分析と考察を行う。一つは事前・事後テストにおける結果を基にした確かな「読むこと」の力全体の育成状況の分析と考察であり、もう一つは確かな「読むこと」の力の構成要素である「主体的に文章を読んでいく力」「自分の言葉で考えを表す力」「考えを筋道立てる力」について、授業実践における段階毎の手だての有効性を、抽出生徒の観察と学習プリントへの記述を分析・考察することである。以下にその詳細を示す。

### ア 事前・事後テストにおける結果を基にした確かな「読むこと」の力の育成状況の分析と考察

【表8】は事前・事後テスト【表8】「読むこと」に関する事前・事後テストの結果

トによる確かな「読むこと」の力の育成状況を示すものである。設問内容は、平成17年度学習定着度状況調査、中学校1学年の「読むこと」に関する学習内容である。「読むこと」の力の育成状況は、設問内容によって差はあるものの、テスト全体で見ると、事前で50.6%、事後で60.6%の正答率となっている。このことから、論理的な思考を促す学習指導によって「読むこと」

項目 設問内容	正答率(%)	
	事前	事後
一 文学的な文章の読み取りに関する問題	49.0	56.3
(1) 文章の展開を確かめる(文章途中にある過去の部分を見つけ、始めと終わりの五字を抜き出す)	40.6	50.0
(2) 登場人物の心情をとらえる(主人公の行動の理由として最も適切なものを選択)	46.9	43.8
(3) 叙述に即した人物像をとらえる(主人公の人物像として最も適切なものを選択)	59.4	75.0
二 説明的な文章の読み取りに関する問題	53.2	67.2
(1) 文章の展開に即して内容をとらえる(答え方の例に挙げられた具体的な言葉を抜き出す)	43.8	71.9
(2) 文章の展開をとらえる(文章を三つに分割したときの最も適切な分け方を選択)	62.5	62.5
全体	50.6	60.6

(注1) 事前テストは6月13日、事後テストは9月22日に実施した

(注2) 対象生徒は1学年32名(男子14名 女子18名)である

の力を育むことにつながったと考えられる。

項目別に見ると、文学的な文章の読取りに関する問題の、(3)叙述に即した人物像をとらえる、については、事前の正答率が59.4%であったが、事後では75.0%という数値を示した。事前での誤答の多くが、「思いやりが深く、常に相手のことを考えてしまうが、…」を選択しており、主人公が飼っている子牛の心配をしている様子のみから判断していることが考えられる。しかし、授業実践において登場人物の人物像をとらえる学習活動を行った際、書かれている事実の一部だけから判断するのではなく、文章全体からとらえる読み方を指導したことから、飼い牛を思うだけでなく、他の人物の話をよく聞いて判断している主人公の様子もとらえることができたために正答率が上がったと考えられる。

説明的な文章の読取りに関する問題の、(1)文章の展開に即して内容をとらえる、については、事前の正答率43.8%から事後71.9%へと伸びている。言葉そのものだけを抜き出す問題において、事前での誤答の多くは「『 』などと答える。」や、段落すべてを抜き出して記述するといったものであり、答えのある箇所は分かっているのに、問題文を読んでその条件に的確に答えるのではなく、不必要な内容まで書き込んでいることである。これについては、授業実践において指導者が「抜き出して答える」や「文中からまとめて答える」といったことを明確にして発問したことや、他者の考えを聞いたり読んだりする集団思考を学習活動で行ったことで、問いや考えに対して論理的に思考して解答することができるようになったために正答率が上がったものと思われる。

しかし、文学的な文章の読取りに関する問題の(2)は、事後の正答率が46.9%から43.8%に下がった。人数としては一人の差ではあるものの、事前・事後共に正答率の低かった問題である。原因としては、設問の答えとなる「ちくっとした痛み」は傍線の引いてある箇所の直前に書いてあるのだが、直後にも同じ表現があるために、「痛み」を「身体的な痛み」と「心的な痛み」を混同してしまったために、誤答を選択した生徒が多かったのではないかと考えられる。また、「別れ別れになる」という表現を「母牛と子牛が別れ別れになる」と「主人公と子牛が別れ別れになる」とに勘違いしてしまったためとも考えられる。

#### イ 授業実践における抽出生徒の観察と学習プリントへの記述による分析・考察

9頁～15頁で概要を述べた授業実践において、説明的な文章の実践から1名(以後生徒A)、文学的な文章の実践から1名(以後生徒B)、計2名の抽出生徒の記述した学習プリントと、授業の様子の観察による段階毎の手だての有効性を分析し、考察を行う。

生徒Aは、初発の感想からすでに文章内容の全体を読み取ることができているが、学習活動をおしたプリントの記述の変容がさらに顕著に見られていることから抽出した。

生徒Bは、事前・事後テストにおける得点が5点満点中、1点から4点に上昇しただけでなく、記述問題において事前では無回答であったものが、事後では的確に記述し得点していることから、力の育成が顕著に見られたと判断し、抽出した。

以降、2名の生徒について、段階毎における構成要素の育成状況について述べていく。

##### (ア) 「主体的に文章を読んでいく力」の育成状況について

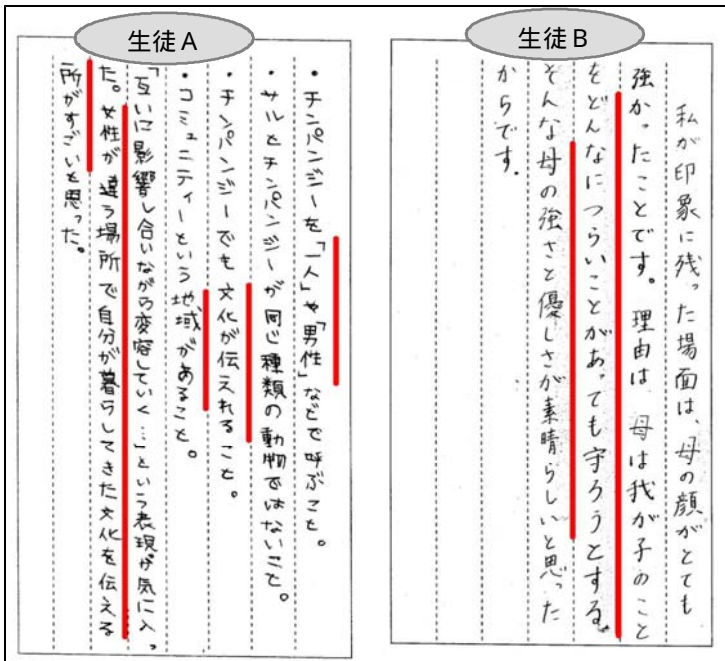
次頁【資料2】は「主体的に文章を読んでいく力」に基づいて、授業実践での「読みの目的をもつ段階」において初発の感想を書かせ、抜粋したものである。

生徒Aは感想の「印象に残ったこと」において、読みの視点となる「チンパンジーを『一人・二人』『男性・女性』と呼ぶこと」「チンパンジーも文化を伝えること」といったことに着目しており、さらに、「女性が違う場所で自分が暮らしてきた文化を伝える所」という継承にかかわ

ることにも興味をもっていた。そして【資料2】抽出生徒の初発の感想（抜粋）

次時において指導者が全員の感想を発表し、読取りの視点を板書で列挙したことから、Aは自分の感想が読取りの視点として取り上げられることで、自ら進んで読もうとするだけでなく、着目していなかった「文化の継承の仕方」の読取りに対しても意欲的に取り組むこととなった。

また、生徒Bは「どんなにつらいことがあっても守ろうとする、母の強さと優しさが素晴らしい」と、主人公の母に対する共感を挙げていることが読取りの視点となり、母への思いを読み取ることに意欲的になるだけでなく、



母の強さの理由でもある戦時中の人々の生活の苦しさ、という他の視点についても主体的に読み取る姿勢がうかがえた。

一読後における初発の感想は、生徒の主観によるものであり、一読だけでは内容を読み取れない生徒も多い。だからといって、従前通り指導者の事前の読みによって学習課題や読み取る内容を一方的に提示するのでは、生徒が主体的に文章を読むことにはつながらない。

本実践では、初発の感想を基に、生徒の印象に残ったり疑問に感じたりしたところを読取りの視点として設定したことで、生徒は初めに感じた自分の読みを忘れることなく、むしろ自ら進んで他の視点に沿った読取りを進めていくことができたと言えることから、読みの目的を明確にもたせて「読むこと」の学習活動に取り組ませることは、主体的に文章を読んでいく力を育むことに有効であると考えている。

(1) 「自分の言葉で考えを表す力」の育成状況について

説明的な文章での実践において、抜き出して答える発問は、段落構成や文章の展開に関するものとなった。内容をまとめていく発問は、文章を要約することをねらったものであった。これは、形式段落の1から詳細に文章を読んでいくのではなく、視点に基づいた読取りを、文章全体をとおして行わせるためである。生徒たちは抜き出して答える発問によって、それぞれの段落に書かれてある内容を把握していることから、キーワードの意味や段落の要約に取り組み易かったのではないかと考える。

次頁【資料3】は「自分の言葉で考えを表す力」に基づいた授業実践での「文章内容を確認する段階」を経た後、課題に対する自分の考えをもつ発問を受けて抽出生徒Aが学習プリントへ記述したものである。

生徒Aの記述を見ると、読み取る内容として掲げた「チンパンジーの文化の継承の仕方について」人間と比較していることが分かる。読み取る内容と読取りの視点の提示によって、自分が初めにもった印象を忘れることなく学習活動に取り組んだことから、次頁【資料3】のような記述になったのではないかと考える。他の生徒も、文化の継承の仕方について感じたことの記述は、人間と比較して「似ている」「似ていない」といったものがほとんどだったので、次の集団思考



の活動でもこのテーマを生かした展開を進めることにした。

しかし、説明的な文章は「要旨を正確に理解することが重要である」という性格上、生徒の思考を促す発問による学習活動というよりは、筆者の考えを確実に把握させることに重点を置いた発問による学習活動となってしまった。そのため、課題に対する自分の考えをもつ発問での記述も、筆者の考えに反駁するようなものは非常に少なくなったのではないかと考える。

文学的な文章の実践では、発問の内容によって思考を促すというよりも、読取りの視点毎の学習活動を行った。抜き出して答える発問は、読取りの視点に関わる事柄の内容に関するものとなった。内容をまとめていく発問は、視点毎に主題にせまることをねらったものであった。生徒は視点毎に読取りを行っていくことで、今、何について読み取っているのか、ということを実感しながら学習活動に取り組む様子が見えてきた。これは、文頭から場面の流れに沿って読取りを行い、その中から主題に関わることを取り上げて把握させていく従来の学習活動ではなく、視点毎に文章全体を読み取る学習活動をすることで、生徒の思考をより促していくことができたのではないかと考える。

【資料4】は「自分の言葉で考えを表す力」に基づいた授業実践での「文章内容を確認する段階」を経た後、課題に対する自分の考えをもつ発問を受けて抽出生徒Bが学習プリントへ記述したものである。

生徒Bの記述を見ると、初発の感想で感じた作者の母への思いは変わらずもち続け、さらにもう一つの視点である作者の戦争というものに対する非難の思いを自分なりに受け止めて、そこから感じたことを自分の言葉によって綴られていることが分かる。

これらのことから、「文章から抜き出し 内容をまとめていき 課題に対する自分の考えをもつ」という思考を促す発問の構成によって文章を読み取っていくことは、生徒が自分の言葉で考えを表す力を育むことに有効であると考えられる。

ただし、今回の実践では、読みの目的と学習課題が学習指導要領の指導事項の第1学年エ・オと第2・3学年ウ、エにかかわることのみであったため、他の指導事項を学習課題にしたときの課題に対する自分の考えをもつ発問をどうするかといったことについては課題が残った。

(ウ) 「考えを筋道立てる力」の育成状況について

次頁【資料5】は、「考えを筋道立てる力」に基づいた授業実践での「自分の考えをまとめる段階」において、抽出生徒Aの学習プリントへ記述が、集団思考の場をとおして変容した様子を示したものである。

生徒Aは、課題に対する自分の考えをもつ発問を受けて、チンパンジーの文化の継承の仕方「手取り足取り教えない」という部分に着目していた。集団思考の場では、指名を受けた10名の生徒の発表から、指導者がそれぞれの発表のポイントを書き出して、ポイント毎に同意見をもった

【資料3】抽出生徒Aの課題に対する自分の考えをもつ発問を受けての記述

チンパンジーと人間の文化の継承を比べてみて、似ているところは、親から子へ伝えられることで、違っているところは、手取り足取りを教えないこと。このような面々文化の伝え方にはいろいろな方法があると感じました。

【資料4】抽出生徒Bの課題に対する自分の考えをもつ発問を受けての記述

もう二度と戦争をしてはいけないと思った。  
関係のない人たちも巻き込み、どんな人が死んでいくだけ。  
母はとても強い人だ。子供たちも懸命に守ろうとする姿が良かった。

【資料5】抽出生徒Aの思考場面毎の記述の変容

**集団思考**

○チンパンジーと人間の文化の継承を比べてみて、似ているところは、親から子へ伝えられることで、違うところは、手取り足取りを教えないこと。このような面で文化の伝え方にはいろいろな方法があると感じました。

○人間とチンパンジーは違う。違う文化のかけ橋。チンパンジーの観察力。

○人間とチンパンジーは違う。違う文化のかけ橋。チンパンジーの観察力。

**個人による再考**

と	た	る	一	分	る	方	然	と	文
て	の	方	つ	か	か	を	似	ち	化
も	か	法	不	か	教	一	て	ン	を
共	機	を	思	る	え	あ	い	パ	伝
感	会	伝	議	気	な	び	い	ン	え
之	が	え	に	が	い	か	と	シ	る
さ	あ	た	思	す	か	ど	こ	は	チ
き	あ	の	た	。	ち	ニ	も	ニ	ン
さ	あ	か	。		ン	パ	あ	シ	パ
説	明	た	の		ニ	ニ	る	ン	ン
文	文	ら	が		シ	シ	こ	シ	シ
だ	だ	は	誰		の	の	こ	を	を
。	。	じ	が		頭	頭	ろ	読	読
		ま	種		の	の	も	ん	ん
		り	を		良	良	あ	ど	ど
		ば	石		さ	さ	れ	人	人
		ど	を		が	が	ば	間	間
		こ	割				全		
		だ	り				全		

自分の感じたこと(考え)とその根拠となる叙述を明確にしている

自分の考えに補足しようと思ったことをメモ

自分の考えの板書メモから、自分の考えに補足しようと思ったことをメモ

よって、集団思考をとおした再考に新たな疑問を発見

ものがあれば挙手するという形で全体確認をした。このとき、生徒Aはその中の三点についてプリントにメモし、自分の考えに補足として書き加えている。また、指導者が「人間は何でもかんでも手取り足取り教えているのか」と問いかけたことで、人間とチンパンジーの文化の継承の仕方には似ている点もあると着目することとなった。そして再考によってまとめる場面では、個人思考による考えに戻りながらも、「誰が最初に種を石で割る方法を伝えたのか」という新たな疑問を書き加えつつ、自分の考えをまとめている。

このことから、この生徒は板書メモから他者の考えを受け入れつつも、初めにもった自分の考えに戻り、さらに新たな疑問を表すまとめ方で、自分の考えを筋道立てていることが分かる。

ただし、意見交流をする集団思考の場合、発表に対する意思確認を挙手だけでなく、質問や意見を出し合うような活動の工夫が必要であり、板書からのメモだけでなく、発言を聞いた時点で自分なりのメモをとらせる指示や支援も必要であることが分かった。

次頁【資料6】は、「考えを筋道立てる力」に基づいた授業実践での「自分の考えをまとめる段階」において、抽出生徒Bの学習プリントへ記述が、集団思考の場をとおして変容した様子を示したものである。

生徒Bは、初発の感想から抱いていた作者の母親への思いに共感していたが、読取りを行ううちに、作者の戦争に対する非難を含めた思いにも共感し、個人思考においてもその考えを表している。

この授業での集団思考は、グループ毎の回覧・書込みという形式で行った。生徒Bのいるグループは5名で構成され、能力の差や同じ考えに偏っていなかった。この生徒たちは指導者の指示によって、共感または「自分は考えていなかった」と新たに発見したことを言葉や傍線によって書き込んでいる。生徒Bは、グループ内の他者の考えを読んで「弟は優しい人々に囲まれて(死んで)幸せだっただろう」「戦争がなければだれも死ななかつた」と追記している。そして、再考によってまとめた文章には、作者の母親への思いに対して共感しながらも、他者の考えから補足した「ヒロユキは幸せだった」というエピソードを考えの前面に打ち出し、しかも個人思考で記述していたことに、根拠となる叙述



【資料6】抽出生徒Bの思考場面毎の記述の変容

この図は、生徒Bの思考場面の変容を示しています。左側には「集団思考」の場面があり、右側には「個人による再考」の場面があります。また、各場面を説明する注釈が添えられています。

**集団思考**

グループ内他者の考えを読んで、自分の考えに補足しようと思ったことをメモ

グループ内で回覧しての他者の書込み

**個人による再考**

先に根拠となる叙述を書いて、自分の感じたこと(と考え)をまとめて書いています

集団思考によって補足したことを挿入

を書き加えている。

このことから、生徒Bは、個人思考による「作者の母への思い・戦争への非難」という思いはもちつつも、グループ内の他者の考えを自分に取り入れ、そこから自分がどうしてそう思ったのかという根拠を示す叙述も記述して文章を筋道立てようとしていることが分かる。

以上のことから、集団思考をとおした個人思考の再考を行わせる学習活動は、考えを筋道立てる力の育成に有効であったと考える。

ただし、グループ内の回覧と書込みによって交流する集団思考の場合、本実践では見られなかったが、能力や考えの偏りが起きないようにグループ構成をすることと、さらにグループ間交流、全体交流に結びつくような場の設定の工夫があれば、より考えを広げ深めることができるのではないかと、ということが課題として残った。

また、今回の実践のように、最終的な考えのまとめとして字数を限定して書いて表す以上、漢字や言葉遣いといった言語に関する指導も課題となった。

6 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめ

本年度の目標は、中学校国語科において、論理的な思考を促す学習指導に関する試案に基づく授業実践計画と検証計画を立案する。そして、計画に基づいた授業実践を行いその分析・考察をとおして、確かな「読むこと」の力の育成状況を検証し、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめを行うことである。

ここでは、それらの研究内容の成果と課題について総括的にまとめる。

(1) 成果

ア 読みの目的を生徒にもたせるために、指導事項を明確化し、それに沿って学習課題を設定したこと、生徒の初発の感想を基に読みの視点を与えて読取りを行わせたことによって、主体的に文章を読もうとする意欲をもたせることにつながった。特に、この読みの目的をもたせる手だては、論理的な思考を促す学習指導に限らず、「読むこと」の指導全般にわたって行うべき



ものであると考える。

イ 思考を促す発問の構成によって、抜き出して答える、内容をまとめていく、という発問によって段階的な読取りを行わせることと、課題に対する自分の考えをもたせる発問によって、読み取ったことを基に自分の考えで課題を解決させることができた。

ウ 論理的な思考を促すために、自分の考えをもち、他者の考えを受けてさらに自らの考えをもう一度見直すという、「個人 集団 個人」の思考場面を設定したことで、生徒は他者に分かりやすく伝えることを意識しながら、読み取った文章を根拠に自分の考えの筋道を立てさせることができた。特に、学習指導要領の指導事項、第1学年工、才と第2・3学年ウ、工において、「読むこと」の力を確かに育みつつも、生徒の多様な読みを生かすための学習指導の展開の一つとなることが分かった。

## (2) 課題

ア 読取りにおける発問や個人思考における生徒の思考する時間を十分に確保し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにする。そのためには、指導事項や学習内容及び板書事項の精選と発問の一層の吟味が必要である。

イ 論理的な思考を促す場となる集団思考の場を効果的に進めていくために、発表形式と回覧・書込み形式といった形態の違いによる配慮事項や、集団思考時における指示・発問等の工夫を検討するために、さらに実践を行う。

以上のことから、課題はあるものの、本研究で作成した論理的な思考を促す学習指導に関する試案を基にした授業を行うことは、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む上で有効であり、中学校国語科の指導充実に役立つものであるという見通しをもつことができた。

## 研究のまとめ

この研究は、中学校国語科において、論理的な思考を促す学習指導の展開をとおして、生徒の確かな「読むこと」の力の育成を図るものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究の基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案した。また、それに基づいて論理的な思考を促す学習指導の具体的な手だてを盛り込んだ試案を作成した。

第2年次である今年度は、昨年度の基本構想に基づいて検証計画を作成し、論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践結果の分析・考察をとおして、中学校における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめを行った。

2年間の研究の成果と課題については、以下のようにまとめることができる。

### 1 研究の成果

(1) 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本的な考え方の検討  
先行研究や文献を基に、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育むことの必要性を「読むこと」の指導の現状と指導改善の必要性から明らかにすることができた。これによって、中学校国語科において確かな「読むこと」の力が育まれた姿を具体化し、論理的な思考を促す学習指導を行う必要性と基本的な考え方について明らかにすることができ、論理的な思考を促す学習指導について検討することができた。

(2) 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本構想の立案  
中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本的な考え方に基づき、

確かな「読むこと」の力を育まれた生徒の姿を実現するために、思考を促す発問の在り方と、「個人思考」と「集団思考」の場面の効果的な展開を明らかにし、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本構想を検討し、立案することができた。

(3) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案の作成

中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する基本構想に基づき、「読みの目的」を明確にもたせるための「読むこと」の指導事項の焦点化、思考を促す発問の構成と個人思考の筋道を立てさせる集団思考の場の工夫を明らかにし、論理的な思考を促す学習指導の試案を作成することができた。

(4) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践計画と検証計画の立案  
論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいて、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む学習活動を明確にし、説明的な文章と文学的な文章の授業実践計画と検証計画を立案することができた。

(5) 論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践と結果の分析・考察  
論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業実践を行い、その分析と考察をとおして、論理的な思考を促す学習指導が、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む上で有効であることが分かった。

(6) 中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究のまとめ

論理的な思考を促す学習指導の展開に関する試案に基づいた授業を行うことは、中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む上で有効であり、中学校国語科における指導の充実に役立つものであるという見通しをもつことができた。

## 2 今後の課題

本研究における実践においても一定の成果は見られたものの、本来、思考の伸長を見極めていくことは、さらに長期的な視野に立つて行うものである。生徒が国語の授業を離れた部分（他教科、日常生活）で、文章をどう読むようになり、どのような考えを表せるか、ということさらさら明らかにするためには、さらに長期的な実践の継続や、国語力の育成を図る手だての工夫をしていく必要がある。

〔おわりに〕

この研究を進めるに当たって、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。

### 【参考文献・参考Webページ】

相澤秀夫(2003),「『なぜ』から『どのように』への転換を」,『国語教育』9月号,pp.8-10

安藤修平(1999),「集団思考と話し合い」,『国語教育』5月号,明治図書,pp.17-19

井上一郎他(1999),「座談会『読むこと』の領域を具体化する」,『実践国語研究』8・9月号,明治図書,pp.86-99

井上尚美(1988),『思考力を伸ばす読みの指導』,学芸図書株式会社,pp.7-12

井上尚美(2005),『国語教師の力量を高める』,明治図書

大森 修(2005),『大森修国語教育著作集 第6巻』,明治図書

尾木和英(1999),「重視したい対話を通しての発見」,『国語教育』7月号,明治図書,pp.54-62

- 尾澤厚子他(2002),「児童生徒の資質や能力を高める指導と評価に関する研究」,岩手県総合教育センター
- 須田 実他(2005),『国語力をつける発問づくり 中学校』,明治図書
- 田近洵一(1999),「話し合いによる読み深め」,『国語教育』7月号,明治図書,p. 8
- 府川源一郎(1999),「個の読みと集団思考との関係」,『国語教育』7月号,明治図書,pp. 5 - 7
- 府川源一郎(2001),「『読むこと』の教育の現状」,『自分の言葉をつくり出す国語教育』,東洋館出版社,pp.54-62
- 牧野和男(2004),「『読むこと』について、もう一度考えてみませんか」,『教育研究 岩手』pp.82-88,  
岩手県総合教育センター
- 米田 猛(2005),「指導事項精選のための三つの視点」,『国語教育』8月号,明治図書,pp.11-12
- 吉田裕久(2003),「『考えざるを得ない』実の場の創造」,『国語教育』9月号,明治図書,pp.11-13
- 藤沢町立新沼小学校(2004),『国語科における確かな読みの力を育む指導』
- Mutsumi May Sagawa Hooked on Education!「ソクラテス発問」  
<http://homepage3.nifty.com/mmsagawa/hooked/ct6.html>

# 補充資料

## 目次

「クジラたちの声」教材指導計画	1
「クジラたちの声」単位時間学習展開案	2
「クジラたちの声」学習プリント	6
「文化を伝えるチンパンジー」教材指導計画	9
「文化を伝えるチンパンジー」単位時間学習展開案	10
「文化を伝えるチンパンジー」学習プリント	16
「大人になれなかった弟たちに……」教材指導計画	18
「大人になれなかった弟たちに……」単位時間学習展開案	19
「大人になれなかった弟たちに……」学習プリント	23
「盆土産」教材指導計画	28
「盆土産」単位時間指導展開案	29
「盆土産」学習プリント	33

教材名		クジラたちの声			
学習指導要領の内容 (指導事項)		【読むこと ウ】文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること 【言語事項 イ】語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意すること			
目標		文章の構成や展開をとらえ、内容の理解に役立てることができる			
読みの目的		筆者の主張をとらえ、文章の構成の仕方を理解するために読む			
評価規準		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">           : 十分満足 : 努力を要する         </div>
		自然の不思議や海の生物について、興味・関心を持って読み進めている	文章構成(「導入」・「筆者の疑問とその答え」・「まとめ」)をとらえ、内容を理解している	自然や環境に関する語句について意味を理解している 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 既習漢字を書いている	
時数	単位時間ごとの計画	具体的評価規準( )と見取りの視点( )			
		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	評価結果に応じた指導
第一時	目標 筆者の自然やクジラについてのものの見方や考え方や自分のものの見方や考え方を比較しながら読める	1 自然の不思議や海の生物について、興味・関心を持って読み進めている  1 自分の考え方やこれまで経験してきたことと比べながら自然や海の生物について知っていること、学んだことなどを話したり、書いたりしている  授業中...観察 学習プリント	2 筆者の自然やクジラについてのものの見方や考え方や自分のものの見方や考え方を比較しながら読んでいる 2 全文を読んで、プリントの項目に対してそれぞれ記入している  授業後...学習プリント	9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読める 10既習漢字を書いている 10既習漢字が書ける	への指導 2については、本時の机間指導の中で初めて見た言葉などに注目させる  10については、学習プリント等に書くときに行えるだけ既習漢字を使い慣れるように指示する
	学習内容 新出漢字・新出音訓の確認 全文通読 初発の感想記入 全文音読		授業中...音読・学習プリント 授業後...ワーク等		
第二時	目標 文章構成をとらえて内容理解に役立てることができる	3 文章構成(「導入」・「筆者の疑問とその答え」・「まとめ」)をとらえている 3a筆者の2つの疑問を表す段落に印をつけている 3b筆者の2つの疑問の答えを表す段落に印をつけている 4 疑問の答えを表す段落を要約している 4a手段は「鳴き声」であり、「クリック=短く高い音、エコロケーション、音響探知機の役目」と「ホイッスル=長く続く低めの音、言葉、歌の役目」と書いている 授業中...観察、教科書、学習プリント	3 文章構成(「導入」・「筆者の疑問とその答え」・「まとめ」)をとらえている 3a筆者の2つの疑問を表す段落に印をつけている 3b筆者の2つの疑問の答えを表す段落に印をつけている 4 疑問の答えを表す段落を要約している 4a手段は「鳴き声」であり、「クリック=短く高い音、エコロケーション、音響探知機の役目」と「ホイッスル=長く続く低めの音、言葉、歌の役目」と書いている 授業中...観察、教科書、学習プリント	9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読める 10既習漢字を書いている 10既習漢字が書ける  授業中...学習プリント	への指導 3については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかで「～なんだらうか」などの問いかけの文に着目させる 4については、3と同様に机間指導で達成状況を把握し、本時のなかでキーワードやキーセンテンスの探し方を指導する
	学習内容・活動 課題設定と読みの目的の確認 内容確認 内容把握		授業中...観察、教科書、学習プリント		
第三時	目標 クジラのコミュニケーション行為について、文章の展開から理解できる	4 疑問の答えを表す段落を要約している 4b理由を「～から」という表現で書いている 5 クジラのコミュニケーションとは何かについてとらえている 5 環境・体の特徴に適応したクジラの情報伝達の行為である内容を書いている 6 同作者の作品「クジラたちの音の世界」を読んで、文章の伝え方に対する自分の考えを持っている 6 本教材の方がわかりやすいことを「疑問とその答えが書かれている」という文章の構成を根拠に書いている 授業中...観察・学習プリント	4 疑問の答えを表す段落を要約している 4b理由を「～から」という表現で書いている 5 クジラのコミュニケーションとは何かについてとらえている 5 環境・体の特徴に適応したクジラの情報伝達の行為である内容を書いている 6 同作者の作品「クジラたちの音の世界」を読んで、文章の伝え方に対する自分の考えを持っている 6 本教材の方がわかりやすいことを「疑問とその答えが書かれている」という文章の構成を根拠に書いている 授業中...観察・学習プリント	9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読める 10既習漢字を書いている 10既習漢字が書ける 11自然や環境に関する語句について意味を理解している 11クジラのコミュニケーションについて正確にとらえている 授業中...学習プリント	への指導 6については、考えの根拠となる表現を探させたり、話合いの際に自分の考えを補足・修正をしたりするよう、机間指導を行う
	学習内容・活動 課題解決 (1)個人思考 (2)集団思考a		授業中...観察・学習プリント		
第四時	目標 筆者の文章の構成や展開の仕方をとらえられる	7 話合いをとおして自分の考えを加除・訂正している 7aグループ内の発表を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えている 7b他のグループやそれを基にした意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えている 8 話合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の考えをまとめている 8 最終的な自分の考えを150字程度でまとめている 授業中...観察・学習プリント	7 話合いをとおして自分の考えを加除・訂正している 7aグループ内の発表を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えている 7b他のグループやそれを基にした意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えている 8 話合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の考えをまとめている 8 最終的な自分の考えを150字程度でまとめている 授業中...観察・学習プリント	9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 9 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読める 10既習漢字を書いている 10既習漢字が書ける  授業中...学習プリント	への指導 9～10については、家庭学習等で繰り返し復習させながら、日常の文章のなかで使わせるようにする
	学習内容・活動 課題解決 (2)集団思考b (3)個人思考の再考 文章構成と展開の仕方の把握		授業中...観察・学習プリント		
教材学習の総括					
観点ごとの総括		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	評価結果に応じた指導
観点ごとの総括		B: 学習プリントが観察メモのいずれかに、自分の考えと比べながら文章を読んでいる様子が見とれる A: 「ちょっと立ち止まって」と合わせて総括する	B: 学習プリントや話合いの評価がB以上である A: すべてがAである	B: 新出漢字・新出音訓が読めないものや、既習漢字の間違いや、ひらがな表記が、2～3程度である 辞書上のコミュニケーションの意味とクジラのコミュニケーションの意味の違いを理解している A: すべての新出漢字・新出音訓が読めて、既習漢字を書いている コミュニケーション以外にも、実生活中で使用される語句の意味の違いの例を出している	: 達成できなかったところを分析し、発問内容や話合いの方法を改善するとともに、個別指導や補充指導を行う 学級の1/4ができていないところについては、次の教材で、学習方法を工夫して指導を行う

( 1 時間目 / 4 時間 )

目 標	筆者の自然やクジラについてのものもの見方や考え方と自分のものもの見方や考え方とを比較しながら読める			
の 学 評 習 価 活 規 動 準 にお ける 具 体	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	自然の不思議やクジラについて、興味・関心を持って読み進めている  教材をとおして把握	筆者の自然やクジラについてのものもの見方や考え方と自分のものもの見方や考え方とを比較しながら読んでいる		自然や環境に関する語句について意味を理解している 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段 時 階 間	学習活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 3 分	1 学習の見通しの確認  2 本時の課題確認			
	文章を読んで、知ったこと、印象に残ったことをまとめよう			
展 開 15 分 5 分 15 分 10 分	3 新出漢字・新出音訓の確認 新出漢字・新出音訓をノートに書く	3 新出漢字は板書、新出音訓は読んで確認	9 新出漢字(14)・新出音訓(2)が読める  ・ノート	
	4 全文通読 範読を聞きながらの黙読	4 全文範読		
	5 初発の感想記入 項目に沿ってプリントへ記入 ・印象に残った内容 ・初めて知った内容	5 一読後の感想を記入させる	10 感想記入の際に、既習漢字が使える  ・学習プリント	5 プリントは回収
	6 文章の音読 全文の音読 (1)微音読による個人練習 (2)一斉音読	6 音読練習の指示 (1)微音読による個人読み (2)一斉音読		
終 末 2 分	7 次時の確認			

( 2 時間目 / 4 時間 )

目 標	文章構成をとらえて内容理解に役立てることができる			
体 学 の 評 価 規 準 活 動 に お け る 具	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	自然の不思議やクジラについて、興味・関心を持って読み進めている  教材をとらえて把握	文章構成(「導入」・「筆者の疑問とその答え」・「まとめ」)をとらえ、内容を理解に役立てている		自然や環境に関する語句について意味を理解している 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとらえて把握
段 時 階 間	学習活動	教師の指示・発問	評 価 …見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 2 分	1 前時の確認 2 本時の課題確認			
展 開 20 分	課題を設定して、読みの目的を確認しよう			
	3 初発の感想を基にした課題設定と読みの目的の確認 教材の課題と、解決を通して得る読みの目的を確認する	3 生徒が興味を持った部分から課題と そのための読みの目的を提示する		
27 分	<p>予想される初発の感想</p> <p>クジラは水中で声を使って情報を伝達している 水中では、音は陸上の五倍という驚くべき速さで伝わる</p> <p>学習課題</p> <p>筆者は、クジラの情報伝達の仕方をどのように伝えているだろう</p> <p>読み取る内容</p> <p>クジラの情報伝達の仕方について</p> <p>読取りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、声を使うのか</li> <li>・どんな声を使うのか</li> </ul>			
	4 内容確認 文章構成(「導入」・「筆者の疑問とその答え」・「まとめ」)をとらえる  疑問の答えを表す段落を要約する	4-1 抜き出して答える発問 文章中の疑問を表す文がある段落に印をつけさせる 第5段落の答えを表す段落に印をつけさせる 第12段落の答えを表す段落に印をつけさせる  4-2 内容をまとめる発問 「手段」の答えを言葉で指摘させる 「クリック」「ホイッスル」の役割をそれぞれまとめさせる		3a 筆者の2つの疑問を表す段落に印をつけている 3b 筆者の2つの疑問の答えを表す段落に印をつけている  ・観察、教科書  4a 手段は「鳴き声」であり、「クリック=短く高い音、エコロケーション、音響探知機の役目」と「ホイッスル=長く続く低めの音、言葉、歌の役目」と書いている  ・学習プリント
終 末 1 分	5 次時の確認			



( 3 時間目 / 4 時間 )

目 標	クジラのコミュニケーション行為について、文章の展開を確かめながらまとめることができる			
体 学 の 評 活 価 動 規 活 動 準 にお け ける 具 具	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	自然の不思議や海の生物について、興味・関心を持って読み進めている  教材をとおして把握	文章の展開を確かめながら要旨をとらえている		自然や環境に関する語句について意味を理解している 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段 時 階 間	学習活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 3 分	1 前時の確認 ノートで確認する 2 本時の課題確認			
	筆者はクジラのどのような行為をコミュニケーションといているのだろう			
25 分	3 内容確認 疑問の答えを表す段落を要約する  クジラのコミュニケーションとは何かについてとらえる	3 内容をまとめる発問 なぜ音を使うのかという理由を書かせる  コミュニケーションを辞書的な意味を知らせる  筆者はクジラのどのような行為をコミュニケーションといているかを書かせる	4b理由を「～から」という表現で書いている ・学習プリント  5 環境・体の特徴に適応したクジラの情報伝達の行為である内容を書いている ・学習プリント	
	4 課題解決 (1)自分でまとめる (個人思考) 同作者の作品「クジラたちの音の世界」を読んで、文章の伝え方に対する自分の考えを持つ	4 (1)課題に対する自分の考えをもつ発問(内容を理解する) 同作者の作品「クジラたちの音の世界」を配布、黙読させて、本教材との伝え方の違いがわかり、どんな点が良いのかといったことを書かせる	6 本教材の方がわかりやすいことを「疑問とその答えが書かれている」という文章の構成を根拠に書いている ・学習プリント	
終 末 2 分	5 次時の予告			

( 4 時間目 / 4 時間 )

目 標	筆者の文章の構成や展開の仕方をとらえることができる			
体 学 の 習 評 活 価 動 規 働 準 にお け ける 具 具	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	自然の不思議や海の生物について、興味・関心を持って読み進めている  教材をとおして把握	筆者の文章構成の仕方とらえている		自然や環境に関する語句について意味を理解している 新出漢字(14)・新出音訓(2)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段 時 階 間	学習活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 2 分	1 前時の確認 ノートで確認する 2 本時の課題確認			
	筆者はクジラのコミュニケーションの仕方をどのように伝えているのだろう			
28 分  15 分	3 課題解決 (2)話し合い(集団思考) 話し合いをとおして自分の考えを加除・訂正する	3 (1)話し合い グループ毎による話し合い グループ毎に進行等役割を決めて、自分の書いたものを発表し 話し合い、加除・訂正させる 全体での話し合い グループの発表を聞いて、共通点や相違点をあげてまとめに必要な語句等を確認させる	7aグループ内の発表を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えている ・観察・学習プリント 7b他のグループやそれを基にした意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えている ・観察、学習プリント	
	(3)自分でまとめる 話し合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の考えをまとめる	3 (3)まとめ 話し合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の考えを150字以内で書かせる	8 最終的な自分の考えを150字程度でまとめている ・学習プリント	8 根拠となる表現や話し合いを受けて全体で確認された表現を必ず使わせる
終 末 5 分	4 教材のまとめ			

はじめて読んで感じたことをまとめよう

・印象に残った内容とその理由

Blank writing area with six horizontal dashed lines for notes.

・この文章を読んで初めて知ったこと

Blank writing area with six horizontal dashed lines for notes.

読み取りの課題  
クジラたちの声

読み取りをとおして身に付けたいこと

問題を提起している段落 ( ) ( )

その問題とは

答えを示している段落

答え：クジラの  
具体的に二つ

「 「

「 「

問題を提起している段落 ( ) ( )

その問題とは

答えを示している段落 ( ) ( )

答え…

から

コミュニケーションとは？

人間のコミュニケーション…

クジラのコミュニケーションとは

行為のこと



教材名		文化を伝えるチンパンジー			
学習指導要領の内容 (指導事項)		【読むこと エ】文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと 【言語事項 ウ】抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること			
目標		文章を読んで社会、自然などについて考え、自分の意見を持つことができる			
読みの目的		チンパンジーの「文化」について考え、感じたことをまとめるために読む			
評価規準		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">           : 十分満足            : 努力を要する         </div>
		文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる	文章を読んで社会、自然などについて考え、自分の意見を持っている	自然や擬人化した語句について意味を理解している 新出漢字(18)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている	
時数	単位時間ごとの計画	具体的評価規準( )と見取りの視点( )			評価結果に応じた指導
		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
第一時	目標	1 文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる  1 チンパンジーの「文化」の継承やその仕方に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読むことができる  授業中：観察・学習プリント・ノート	2 全文を読んで、初めて知った内容や言葉の使い方や表現で参考になったことについて感想を記入している 2 全文を読んで、プリントの項目に対してそれぞれ記入することができる 3 語句に注意して、音読している 3 新出漢字・新出音訓に注意して音読できる 授業中：観察・学習プリント	17新出漢字(18)・新出音訓(1)を読んでいる 17新出漢字(18)・新出音訓(1)が読める 18既習漢字を書いている 18ノート記入の際に、既習漢字が使える 授業中：観察・学習プリント・ノート	への指導 2については、本時のなかで机間指導で達成状況を把握し、項目ごとに思ったことを記入させる(教材文の学習プリントに書き込んでいる時間)
	学習内容・活動		新出漢字・音訓の確認 全文通読 初発の感想 全文音読	4 初発の感想を基に、提示された課題と、読みの目的、そのための読み方を確認している 4 自分たちの感想から課題と読みの目的を確認して、課題解決を通して身に付ける読み方を確認できる 5 文中における語句の効果的な使い方とそこから分かる筆者の思いを明らかにしている 5 擬人化することで、筆者のチンパンジーやその研究に対する思いをとらえている 授業中、後：観察・ノート	17同上 17同上 18同上 18同上 19自然や擬人化した語句について意味を理解している 19自然や擬人化した語句について意味を理解できる 授業中：観察・学習プリント
第二時	目標	6 序論の展開を読み取っている 6 筆者が興味を持ったこと、調べようとしたことに線を引ける 7 本論を前半と後半に分けている 7 第7～27段落をデータや実験・観察内容の違いで二分することができる 8 前後半それぞれの段落構成を理解している 8 前半でデータとその考察の段落、後半で実験・調査と事実、考察の段落にそれぞれ印をつけている	6 序論の展開を読み取っている 6 筆者が興味を持ったこと、調べようとしたことに線を引ける 7 本論を前半と後半に分けている 7 第7～27段落をデータや実験・観察内容の違いで二分することができる 8 前後半それぞれの段落構成を理解している 8 前半でデータとその考察の段落、後半で実験・調査と事実、考察の段落にそれぞれ印をつけている 授業中：教科書	17同上 17同上 18同上 18同上	への指導 7・8については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかで実験や観察の内容や考察の意味を指導する への指導 17については、「使いこなせる」ところまで迫るように個々に目標を示す
	学習内容・活動		学習課題と読みの目的の確認 全文通読 難語句・表現の確認 授業中：観察・学習プリント・ノート	9 本論前半の考察内容を把握している 9 第14段落が何を考察しているのかをとらえている 10本論前半の考察の根拠となるデータに基づく事実を把握している 10a割り表の基となっている段落だから第13段落であると指摘できる 10bコミュニティーごとの種 割り図を書いて 11本論前半を要約している 11前半をデータから得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている 授業中、後：観察・ノート	17同上 17同上 18同上 18同上
第三時	目標	12本論後半の考察内容を把握している 12第27段落が何について考察しているのかを1文で書いている 13本論後半の実験内容を把握している 13a後半の実験では文化の継承を知るために実験していることをとらえている 13b後半の実験内容とその観察状況のまとめの文に適切な言葉を入れて文を完成できる 14本論後半を要約している 14後半を実験・観察から得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている 授業中、後：観察・ノート	12本論後半の考察内容を把握している 12第27段落が何について考察しているのかを1文で書いている 13本論後半の実験内容を把握している 13a後半の実験では文化の継承を知るために実験していることをとらえている 13b後半の実験内容とその観察状況のまとめの文に適切な言葉を入れて文を完成できる 14本論後半を要約している 14後半を実験・観察から得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている 授業中、後：観察・ノート	17同上 17同上 18同上 18同上	への指導 12については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかでキーワードやキーセンテンスの探し方を指導する 14については、単なる思いつきや感想ではなく、叙述を根拠に自分の考えを書くことを指導する
	学習内容・活動		実験・調査によって得た事実と考察の関係に着目して、筆者の論理の展開を読み取る 本論前半の内容把握 本論前半の要約 本論後半の内容把握(1)	15学習を通して理解したことを活かして、自分の考えをまとめている 15チンパンジーの「文化」とその継承の仕方から考えた自分の意見を、文章中の叙述を根拠に書ける 16話し合いをとおして自分の考えを加除・訂正している 16他者の意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えることができる 17話し合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の意見を書いている 17最終的な自分の考えを200字程度でまとめることができる 授業中、後：観察・学習プリント	17同上 17同上 18同上 18同上
第四時	目標	文章を読んで社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ  課題解決 個人思考 集団思考 個人思考の再考	9 本論前半の考察内容を把握している 9 第14段落が何を考察しているのかをとらえている 10本論前半の考察の根拠となるデータに基づく事実を把握している 10a割り表の基となっている段落だから第13段落であると指摘できる 10bコミュニティーごとの種 割り図を書いて 11本論前半を要約している 11前半をデータから得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている 授業中、後：観察・ノート	17同上 17同上 18同上 18同上	への指導 12については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかでキーワードやキーセンテンスの探し方を指導する 14については、単なる思いつきや感想ではなく、叙述を根拠に自分の考えを書くことを指導する
	学習内容・活動		実験・調査によって得た事実と考察の関係に着目して、筆者の論理の展開を読み取る 本論後半の内容把握(2) 本論後半の要約	15学習を通して理解したことを活かして、自分の考えをまとめている 15チンパンジーの「文化」とその継承の仕方から考えた自分の意見を、文章中の叙述を根拠に書ける 16話し合いをとおして自分の考えを加除・訂正している 16他者の意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えることができる 17話し合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の意見を書いている 17最終的な自分の考えを200字程度でまとめることができる 授業中、後：観察・学習プリント	17同上 17同上 18同上 18同上
第五時	目標	文章を読んで社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ  課題解決 個人思考 集団思考 個人思考の再考	12本論後半の考察内容を把握している 12第27段落が何について考察しているのかを1文で書いている 13本論後半の実験内容を把握している 13a後半の実験では文化の継承を知るために実験していることをとらえている 13b後半の実験内容とその観察状況のまとめの文に適切な言葉を入れて文を完成できる 14本論後半を要約している 14後半を実験・観察から得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている 授業中、後：観察・ノート	17同上 17同上 18同上 18同上	への指導 12については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかでキーワードやキーセンテンスの探し方を指導する 14については、単なる思いつきや感想ではなく、叙述を根拠に自分の考えを書くことを指導する
	学習内容・活動		実験・調査によって得た事実と考察の関係に着目して、筆者の論理の展開を読み取る 本論後半の内容把握(2) 本論後半の要約	15学習を通して理解したことを活かして、自分の考えをまとめている 15チンパンジーの「文化」とその継承の仕方から考えた自分の意見を、文章中の叙述を根拠に書ける 16話し合いをとおして自分の考えを加除・訂正している 16他者の意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えることができる 17話し合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の意見を書いている 17最終的な自分の考えを200字程度でまとめることができる 授業中、後：観察・学習プリント	17同上 17同上 18同上 18同上
第六時	目標	文章を読んで社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ  課題解決 個人思考 集団思考 個人思考の再考	12本論後半の考察内容を把握している 12第27段落が何について考察しているのかを1文で書いている 13本論後半の実験内容を把握している 13a後半の実験では文化の継承を知るために実験していることをとらえている 13b後半の実験内容とその観察状況のまとめの文に適切な言葉を入れて文を完成できる 14本論後半を要約している 14後半を実験・観察から得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている 授業中、後：観察・ノート	17同上 17同上 18同上 18同上	への指導 12については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかでキーワードやキーセンテンスの探し方を指導する 14については、単なる思いつきや感想ではなく、叙述を根拠に自分の考えを書くことを指導する
	学習内容・活動		文章を読んで社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ  課題解決 個人思考 集団思考 個人思考の再考	15学習を通して理解したことを活かして、自分の考えをまとめている 15チンパンジーの「文化」とその継承の仕方から考えた自分の意見を、文章中の叙述を根拠に書ける 16話し合いをとおして自分の考えを加除・訂正している 16他者の意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えることができる 17話し合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の意見を書いている 17最終的な自分の考えを200字程度でまとめることができる 授業中、後：観察・学習プリント	17同上 17同上 18同上 18同上
観点ごとの総括		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	評価結果に応じた指導
B：学習プリントが観察メモ、ノートの記述のいずれかに、チンパンジーの「文化」の継承やその仕方に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら文章を読んでいる様子が見とれる A：単元をとおして評価する		B：学習プリントや話し合い、ノートの記述の評価がB以上である A：すべてがAである	B：新出漢字・新出音訓が読めないものや、既習漢字の間違いや、ひらがな表記が、2～3程度である 自然や擬人化した語句について調べた意味を理解している A：すべての新出漢字・新出音訓が読めて、既習漢字を書いている 自然や擬人化した語句を自分たちの生活の中で使用する意味に置き換えて理解している	: 達成できなかったところを分析し、発問内容や話し合いの方法を改善するとともに、個別指導や補充指導を行う 学級の1/4ができていないところについては、次の教材で、学習方法を工夫して指導を行う	

( 1 時間目 / 6 時間 )

目 標	筆者が文中で使用している表現の仕方や特徴に注意して読める			
評 価 規 準 学 習 活 動 に お け る 具 体 の	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる  教材をとおして把握	筆者が文中で使用している表現の仕方や特徴に注意して読んでいる		自然や擬人化した語句について意味を理解している 新出漢字(18)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段 階 時 間	学習活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 3 分	1 学習の見通しの確認  2 本時の課題確認			
	文章を読んで、知ったこと、印象に残ったことをまとめよう			
展 示 15 分	3 新出漢字・新出音訓の確認 新出漢字・新出音訓をノートに書く	3 新出漢字は板書、新出音訓は読んで確認	17 新出漢字(18)・新出音訓(1)が読める  ・ノート	
	4 全文通読 範読を聞きながらの黙読	4 全文範読		
開 演 15 分	5 初発の感想記入 項目に沿ってプリントへ記入 ・印象に残った内容 ・初めて知った内容 ・言葉の使い方や表現で参考になったこと	5 一読後の感想をプリントの項目に従って記入させる	2 全文を読んで、プリントの項目に対してそれぞれ記入することができる 18 感想記入の際に、既習漢字が使える  ・学習プリント	5 プリントは回収
	6 次時の確認			
終 末 1 分				



( 2 時間目 / 6 時間 )

目 標	文中における語句の効果的な使い方に注意して読み、自分の言葉の使い方に役立てることができる			
評 価 規 準 学 習 活 動 に お け る 具 体 的 の	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる  教材をとおして把握	文中における語句の効果的な使い方に注意して読み、自分の言葉の使い方に役立 てている		自然や擬人化した語句について意味を 理解している 新出漢字(18)・新出音訓(1)を 読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段 階 時 間	学 習 内 容 ・ 活 動	教 師 の 指 示 ・ 発 問	評 価 …見取りの視点 評価方法	留 意 事 項
導 入 3 分	1 前時の確認 教師の説明で確認する 2 本時の課題確認			
	課題を設定して、読みの目的を確認しよう			
展 開 20 分	3 初発の感想を基にした課題設定と読みの目的の確認 教材の課題と、解決を通して得る読みの目的を確認する	3 生徒が興味を持った部分から課題とそのための読みの目的を提示する	4 自分たちの感想から課題と読みの目的を確認して、課題解決を通して身に付ける読み方を確認できる ・観察、ノート	3 事前回収したプリントを基に設定教材を通しての課題を基に、課題解決のために必要な読みと読み方も、生徒のプリントの記入事項から提示
	<p>予想される初発の感想</p> <p>チンパンジーにも「文化」がある 「男性・女性」「一人・二人」文化が継承されている コミュニティー</p> <p>学習課題</p> <p>読み取りをとおして分かったことや考えたことを、自分の意見としてまとめる</p> <p>読み取る内容</p> <p>チンパンジーの「文化」とその継承の仕方について</p> <p>読み取りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者のチンパンジーへの思い</li> <li>・チンパンジーの種割り文化とは</li> <li>・文化の継承の仕方</li> <li>・調査、実験・観察による事実と考察の読分け</li> </ul>			
15 分	4 特徴的な表現の確認 文中における語句の効果的な使い方とそこから分かる筆者の思いをを明らかにする	4 第1～4段落を読んで、なぜチンパンジーを「一人」「二人」「男性」「女性」と表現しているかを考えさせる	5 チンパンジーを擬人化して表現している理由を教科書から見つけて、線を引いている ・ノート	
10 分	5 全文の音読 (1)微音読による個人練習 (2)一斉音読	5 音読練習の指示 (1)微音読による個人読み (2)一斉音読	3 新出漢字・新出音訓に注意して音読できる ・観察	
終 末 2 分	6 次時の確認			

( 3 時間目 / 6 時間 )

目 標		文章の構成から筆者の論理の展開の仕方を読み取れる			
価 学 規 習 準 活 動 に お け る 具 体 的 評	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能	
	文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる  教材をとおして把握	序論における筆者の研究に対する思いや、本論における事実と考察の関係に注目して、筆者の論理の展開の仕方を読み取っている		自然や擬人化した語句について意味を理解している 新出漢字(18)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握	
段 時 階 間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項	
導 入 3 分	1 前時の確認 ノートで確認する 2 本時の課題確認				
	段落ごとに書かれている内容を読み分けよう				
展 開 15 分	3 内容確認 序論の展開を読み取る	3 抜き出して答える発問 第5・6段落から、筆者の疑問と興味、何を調べるための研究なのかを見つけさせる	6 なぜ、チンパンジーの研究をしているのか、筆者が興味を持ったこと、調べようとしたことに線を引いている ・観察、教科書	6 一目で分かるように、色や線の種類を替えさせる	
	本論を前半と後半に分ける  前後半それぞれの段落構成を理解する	第7～27段落をデータや実験の内容をもとに前半と後半に分けさせる  前半のデータとその考察をしている段落と、後半の実験・観察から分かった事実の段落と考察の段落に印をつけさせる	7 第7～27段落をデータや実験・観察内容の違いで二分することができる ・観察、教科書  8 前半でデータとその考察の段落、後半で実験・調査と事実、考察の段落にそれぞれ印をつけている ・観察、教科書	7 わからない生徒には、筆者の考えを書いている段落に目を向けさせる  8 後半部分では、実験によって新たな疑問を述べている段落があるので、混乱しないよう注意する	
終 末 2 分	4 次時の確認				

( 4 時間目 / 6 時間 )

目 標	実験、観察・調査によって得た事実と考察の関係に着目して、筆者の論理の展開を読み取れる(1)			
評価規準 学習活動における具体的な	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる  教材をとおして把握	実験、観察・調査によって得た事実と考察の関係という論理の展開から、内容を理解している		自然や擬人化した語句について意味を理解している 新出漢字(18)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段階 時間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 3 分	1 前時の確認 ノートで確認する 2 本時の課題確認			
	事実と考察の関係に着目してチンパンジーの「文化」とその継承について読み取ろう			
展 開 30 分	3 内容把握 本論前半の考察内容を把握する  本論前半の考察の根拠となるデータに基づく事実を把握する	3 内容をまとめていく発問 第14段落が何を考察しているのかをノートに記述させる  考察の根拠となる最も重要な段落を指摘させる  コミュニティごとの種割りの図を第13段落と教科書の図表を基にまとめさせる	9 第14段落が何を考察しているのかを1文で書いている ・観察、ノート 10a種割り表の基となっている段落だから第13段落であると指摘できる  10bコミュニティごとの種割りの図を書いている ・観察、ノート	9 「コミュニティ」「文化」といった用語の意味は2 / 6で行ったことを再度確認する
	15 分	本論前半を要約する	前半の要約文を考察をまとめた文基に書かせる	11前半をデータから得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている ・観察、ノート
終末 2 分	4 次時の確認			11具体的になりすぎないように1文程度でまとめるよう指導する 書けない生徒には、考察に用語の意味を付け足してまとめるように指導する

( 5 時間目 / 6 時間 )

目 標	実験、観察・調査によって得た事実と考察の関係に注目して、筆者の論理の展開を読み取れる(2)			
評価規準 学習活動における 具体的な	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる  教材をとおして把握	実験、観察・調査によって得た事実と考察の関係という論理の展開から、内容を理解している		自然や擬人化した語句について意味を理解している 新出漢字(18)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段階 時間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 2 分	1 前時の確認 教師の説明を聞く 2 本時の課題確認			
	事実と考察の関係に着目してチンパンジーの「文化」とその継承について読み取ろう			
展 開 35 分	3 内容把握 本論後半の考察内容を把握する  本論後半の実験内容を把握する	3 内容をまとめていく発問 第27段落が何を考察しているのかをノートに記述させる  後半にある実験で、筆者が知ろうとしていることは何かを書かせる  実験内容とその観察状況をまとめさせる	12 第27段落が何について考察しているのかを1文で書いている ・ノート 13a後半の実験では文化の継承を知るために実験していることをとらえている ・ノート 13b後半の実験内容とその観察状況のまとめの文に適切な言葉を入れて文を完成できる ・ノート	12ヨの行動だけでなく、子供達の観察も継承に関わることを指導する 13a接続詞「では」や、疑問文になっていることを指示する
	12 分	本論後半を要約する	後半を事実とその考察の内容を入れた要約文を書かせる	14 後半を実験・観察から得た事実とその考察といった内容で要約文を書いている ・ノート
終 末 1 分	4 次時の確認			

( 6 時間目 / 6 時間 )

目 標		文章を読んで社会、自然などについて考え、自分の意見を持つことができる			
評価 規 準	学習 活 動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
	活動 に お け る 具 体 の	文章の内容や題材に興味を示し、印象に残った語句や表現に着目しながら読んでいる  教材をとおして把握	文章を読んで、動物や人間の「文化」の継承について考え、自分の意見を持っている	自然や擬人化した語句について意味を理解している 新出漢字(18)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握	
段 階	時 間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入	3 分	1 前時の確認 教師の説明を聞く			
		2 本時の課題確認			
チンパンジーの「文化」とその継承について考えたことをまとめよう					
展 開	10 分	3 課題解決 (1)自分でまとめる 学習を通して理解したことを活かして、自分の考えをまとめる	3 (1) 課題に対する自分の考えをもつ 発問 (文章の内容から想像する) チンパンジーの「文化」とその継承の仕方 で学んだことを基に、自分の考えを書かせる	15チンパンジーの「文化」とその継承の仕方から考えた自分の意見を、文章中の叙述を根拠に書ける ・学習プリント	15自分の考えをノートに記述して次時の話合いに臨むように指導
	20 分	(2)話合い 話合いをとおして自分の考えを加除・訂正する	3 (2) 話合い (全体で) 他者の発表を聞いて、共通点や相違点をあげてまとめに必要な語句等を確認させる	16他者の意見を聞いて、自分の考えを訂正したり付け加えている ・観察、学習プリント	
	10 分	(3)自分でまとめる 話合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の考えをまとめる	3 (3) まとめ 話合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の考えを200字以内で書かせる	17最終的な自分の考えを200字程度でまとめている ・学習プリント	17 根拠となる表現や話合いを受けて全体で確認された表現を必ず使わせる
終 末	7 分	4 教材のまとめ			

「文化を伝えるチンパンジー」

はじめて読んで感じたことをまとめよう

・印象に残った内容とその理由

<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
---

・この文章を読んで初めて知ったこと

<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
---

・言葉の使い方や表現で参考になったところを書き出してみよう

<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
--

「文化を伝えるチンパンジー」

松沢 哲郎

ここまでで、「チンパンジーの文化とその継承の仕方について」は読み取れたと思います。

そこで、みなさんが解決すべき最後の課題です。

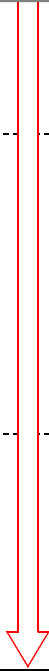
「チンパンジーの文化とその継承の仕方について」分かったこと・感じたことを書きましょう。

そのとき、自分の意見のもと（根拠）となる文章中の表現を必ず入れましょう。


最後に話し合いをとおして、みんなで確認したことを含めて、自分の考えを二〇〇字以内でまとめましょう。


教材名		大人になれなかった弟たちに……			
学習指導要領の内容 (指導事項)		【読むこと オ】文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること 【言語事項 ウ】事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の語彙について関心を持つこと			
目標		作者の体験から、時代や状況、自分を見つめていくことの大切さを考えることができる			
読みの目的		作者の思いをとらえ、自分の考えを広げたり深めるために読む			
評価規準		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
		作中に展開する情景や心情の表現を読み取るようにしている	作品に込められた作者の思いをとらえ、自分の考えを広げたり深めようとしている	作品の中で使われている、戦争中の特別な言葉について意味を調べ、理解している	
時教		具体的評価規準( )と見取りの視点( )			
単位時間ごとの計画		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	評価結果に応じた指導
第一時	目標 全文を読んで、印象に残った場面をまとめる	1 作中に展開する情景や心情の表現を読み取るようにしている 1 作者から見た情景や心情を理解しながら文章を読んでいる 授業中、後：観察・学習プリント	2 全文を読んで、印象に残った場面についてまとめている 2 全文を読んで、感想プリントの項目に対してそれぞれ記入している 授業中：観察・学習プリント	9 作品の中で使われている、戦争中の特別な言葉について意味を調べ、理解している 9 作品の中で使われている、戦争中の特別な言葉について意味を調べ、プリントに書いている 10 10 11 11 授業中、後：観察・学習プリント	への指導 2については、本時のなかで机間指導によって達成状況を把握し、項目ごとに思ったことを記入させる(学習プリントに書き込んでいる時間) 9については机間指導で達成状況を把握し、グループ内で教え合うなどの形をとって、意味を確認させる
	学習内容・活動 特別な言葉の意味の確認 新出漢字・音訓の確認 全文通読 初発の感想				
第二時	目標 題名に込められた作者の思いを読み取る	3 初発の感想を基に、提示された課題と読みの目的を確認している 3 自分たちの感想から読み取る内容と解決する課題をノートに記入している 4 主人公の心情をとらえるために、文章中の適切な表現に着目している 4 「僕」の心情をとらえるために、弟の死に至るまでの適切な表現に線を引いている 授業中：観察・教科書	10 新出漢字(19)・新出音訓(1)を読んでいる 10 新出漢字(19)・新出音訓(1)が読める 11 既習漢字を使って書いている 11 プリントやノート記入の際に既習漢字が使える 授業中、後：観察・学習プリント・ノート	への指導 11については、ノート等に書くときにできるだけ既習漢字を使い慣れるように話す	
	学習内容・活動 学習課題と読みの目的の確認 心情把握に関わる描写の指摘				
第三時	目標 題名に込められた作者の思いを読み取る	5 着目した表現を基に、少年時代の「僕」の心情や現在の作者の思いをとらえている 5 着目した表現やあらすじを基に、「僕」や母親の心情について発問に従って書いている 6 題名に込められた作者の思いを基に、それに対する自分なりの考えを、叙述を根拠にまとめている 6 読み取りを終えて感じたこと・考えたことを、文章中の叙述を根拠にプリントに書いている 授業中、後：観察・学習プリント	10 10同上 11 11同上	への指導 5については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかで言葉やしぐさがどるかといったことを連想させる 6については、単なる思いつきや感想ではなく、叙述を根拠に自分の考えを書くことを指導する	
	学習内容・活動 心情把握 課題解決(1) 個人思考				
第四時	目標 作者の思いから感じたことをまとめる	7 他者の考えを基に自分の考えに加筆・修正している 7 他者の考えを読んで、他者や自分のプリントに書込をしている 8 考えの交流をおして付け加えたことを含めて自分の意見をまとめている 8 最終的な自分の考えを根拠を踏まえて200字以内で書いている 授業中、後：観察・学習プリント	10 10同上 11 11同上	への指導 7については、自分の考えを打ち消すのではなく、付け加えることが重要であることを指導する 8については、「読んだことのない人にも伝わること」を意識して、書く順序や構成を工夫させる	
	学習内容・活動 課題解決(2) 集団思考 課題解決(3) 個人思考の再考				
教材学習の総括					
観点ごとの総括		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	評価結果に応じた指導
		B：学習プリントが観察メモ、ノートの記述のいずれかに、登場人物の人物や心情について思いを込めている様子が見られる A：単元をとおして評価する	B：学習プリントや話し合いノートの記述の評価がB以上である A：すべてがAである	B：新出漢字・新出音訓が読めないものや、既習漢字の間違いや、ひらがな表記が2～3程度である A：すべての新出漢字・新出音訓が読めて、既習漢字を書いている	：達成できなかったところを分析し、発問内容や意見交換の方法を改善するとともに、個別指導や補充指導を行う 学級の1/4ができていないところについては次の教材や単元で、学習方法を工夫して指導を行う

：十分満足  
：努力を要する





( 1 時間目 / 4 時間 )

目 標	全文を読んで、印象に残った場面をまとめることができる			
の 学 評 習 価 活 動 規 準 に お け る 具 体	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
	作中に展開する情景や心情の表現を読み取ろうとしている  教材をとおして把握	全文を読んで、印象に残った場面についてまとめている	学習「言葉」にある語を調べたり、その類義語を調べたりして、読み取りに生かしている 新出漢字(19)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握	
段 時 階 間	学習活動	教師の指示・発問	評 価 …見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入  10 分	1 学習の見通しの確認  2 特別な語句の意味の確認 戦争中の特別な意味を持つ語句の意味を調べる	1 戦時中(終戦間近)の日本の状況について簡単に説明する 2 特別な意味を持つ語句を調べ、プリントに書かせる	9 作品の中で使われている、戦争中の特別な言葉について意味を調べ、プリントに書いている  ・学習プリント	1 資料(ワーク)
	印象に残った場面を感想に書き、あらすじを確認しよう			
展 開  10 分	4 新出漢字・新出音訓の確認 宿題としてノートに書いてある新出漢字・新出音訓の読みを確認	4 新出漢字・新出音訓を読んで読み仮名確認させる	10 新出漢字(19)・新出音訓(1)が読める  ・観察	4 前時の終末で、新出漢字、新出音訓をノートに書いてくることを指示しておく
	5 全文通読  6 初発の感想記入 項目に沿ってプリントへ記入 ・印象に残った内容	5 全文範読を聞きながら黙読させる  6 プリントの項目に従って感想記入させる	2 全文を読んで、感想プリントの項目に対してそれぞれ記入している 11 プリント記入の際に、既習漢字が使える	6 初発の感想は回収
終 末 3 分	7 宿題の指示 8 次時の確認	7 あらすじの確認を、宿題プリントの( )内に語句を記入して行う		7 学習プリント

( 2 時間目 / 4 時間 )

目標	文章に込められた作者の思いを読み取ることができる				
学習の活動に評価を規準	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能		
	登場人物の人柄や心情について思いに心を寄せて読もうとしている 教材をとおして把握	初発の感想を基に、提示された課題と読みの目的を確認している 主人公の心情をとらえるために、文章中の適切な表現に着目している	新出漢字(25)・新出音訓(5)を読んでいる 既習漢字を書いている 下二つは教材をとおして把握		
段階	時間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導入	5分	1 宿題の確認	1 プリントの( )内に言葉を記入してあらすじをとらえる来たかを 確認する		1 学習プリント
		2 本時の課題確認			
展開	15分	課題を設定しよう・文章に込められた作者の思いを読み取ろう			
		3 初発の感想を基にした課題設定と読みの目的の確認 何を読み取り、それを通して解決する課題を讀みの目的として確認する	3 生徒が印象に残った部分から読み取る内容と、それを通しての課題＝読みの目的を提示する	3 読み取る内容と解決する課題をプリントに記入している ・観察、学習プリント	3 初発の感想を基に設定
閉	28分	4 該当箇所を指摘 母の様子と心情を表す表現を指摘する  母の心情をとらえる	4 (1)抜き出して答える発問によって、教科書の適切な表現抜き出させる 「母は初めて泣きました」とあるが、どんなときか死んだときには何といったのか「幸せだった」から受ける印象は他に母の強さが分かるところに線を引きなさい なぜ、こんなにも強くしていなければならないのか そんな母を僕はどう見ているか  4 (2)内容をまとめる発問によって、叙述を基にした心情をとらえさせる 母は「ヒロユキは幸せだった」と言っているが、本当にそう思っているのか、なぜそんなことを言うのか	4 母の心情をとらえるために、弟の死に至るまでの適切な箇所を抜き出してプリントに書いている ・学習プリント	4 発問を受けて、教科書の適する表現にマーカーで線を引かせる
		1 5次時の確認			

予想される主な初発の感想

栄養失調で死んでしまったヒロユキがかわいそう  
戦争が早く終わってれば、ヒロユキは死ななくて良かったのに戦争は絶対に起こしてはいけない

学習課題

作者の思いをとらえ、自分の感じたことをまとめよう

読み取る内容

母への思いと最後の一文に込められた思いについて

読み取りの視点

- ・母の気持ち(強さと悲しさ)
- ・母を見ている僕の気持ち
- ・弟の死に対する当時と現在の僕の気持ち

( 3 時間目 / 4 時間 )

目 標		文章に込められた作者の思いを読み取ることができる				
評 価 規 準	学 習 活 動 における 具体の	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能		
		登場人物の人柄や心情について思いに心を寄せて読もうとしている 教材をとおして把握	着目した表現を基に、少年時代の「僕」の心情や現在の作者の思いをとらえている 題名に込められた作者の思いを基に、それに対する自分なりの考えを、叙述を根拠にまとめている	新出漢字(19)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 下二つは教材をとおして把握		
段 階	時 間	学 習 内 容 ・ 活 動	教 師 の 指 示 ・ 発 問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留 意 事 項	
導 入	1 分	1 前時の確認				
		2 本時の課題確認				
展 開	30 分	文章に込められた思いを読み取るう				
		3 文章内容を確認 弟の死に対する当時と現在の僕の思いをとらえる	3 内容をまとめる発問によって、叙述を基にした心情をとらえさせる なぜ、僕はヒロユキのミルクを盗みのみしたのか  当時の僕は盗み飲みしたことをどう思っていたのか  大人になった僕 = 作者はどう思っているのか  「大人になれなかった弟たち」の「たち」とはどういうことか	5 着目した表現やあらすじを基に、「僕」や母親の心情について発問に従って書いている  ・観察、学習プリント		
		4 課題解決(1) 課題に対する自分の考えを、叙述を根拠にまとめる	4 課題に対する自分の考えを持つ発問 「大人になれなかった弟たちに...」の読み取りを終えて感じたことを、文章中の叙述を根拠に書きなさい	6 読み取りを終えて感じたこと・考えたことを、文章中の叙述を根拠にプリントに書いている  ・観察・学習プリント		
終 末	1 分	5 次時の確認				

( 4 時間目 / 4 時間 )

目 標	文章に込められた作者の思いから、自分を見つめていくことの大切さを考えることができる			
の 学 評 習 価 活 規 動 準 における 具 体	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	作中に展開する情景や心情の表現を読み取ろうとしている 教材をとおして把握	他者の考えを聞いて自分の考えを加除・修正している 考えの交流をとおして全体で確認したことなどを付け加えて自分の意見をまとめている		新出漢字(19)・新出音訓(1)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握
段 時 階 間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入 1 分	1 前時の確認 2 本時の課題確認			
	作者の思いから自分の感じたことをまとめよう			
展 開 30 分 10 分	3 課題解決(2) 他者の考えを聞いて自分の考えに加筆・修正する	3 交流(グループで) グループ内で他者の感想を回読みし、以下の手順で書込みをさせる 共感するところ _____ 自分が気づかなかったところ ~~~~~ 一言感想 で自分が気づかなかった考えは自分のプリントにメモする	7 他者の発表を聞いて、自分の考えを修正したり付け加えたりすることができる ・観察、学習プリント	
	4 課題解決(3) 考えの交流をとおして全体で確認したことなどを付け加えて自分の意見をまとめる	4 まとめ 話し合いをとおして全体で確認したことなどを付け加えて、自分の考えを200字程度で書かせる	8 最終的な自分の考えを200字程度にまとめることができる ・観察、学習プリント	
終 末 9 分	5 教材学習のまとめ 6 次時の予告	5 作品に込められた作者の思いをとらえ、作者ものの見方や考え方を理解する読み方を確認する 6 「手紙を書こう」の予告をする		

大人になれなかった弟たちに…… 米倉斉加年

はじめて読んで感じたことをまとめよう  
・印象に残った場面とその理由

-----
-----
-----
-----
-----
-----

語句を確認しよう

国民学校	
太平洋戦争	
B 29	
防空壕	
配給	
疎開	
八月六日	
ヒロシマ	
八月九日	
ナガサキ	
一九四五年八月十五日	

大人になれなかった弟たちに……

米倉斉加年

全体のあらすじまとめよう

<p>登場人物        ( ) 主人公        ( ) 母 妹        ( ) 祖母        ( ) 父は？        ( ) 弟        ( ) いない</p>	<p>毎晩、防空壕（自分たちが掘った）（ ）の中で寝た。        食べ物が（ ）なかった。        でも、ときどき（ ）があった。        弟の（ ）には、（ ）があった。        ( )。大切な大切な食べ物</p> <p>かわいくてかわいくて        しかたがなかった        ( )        よくわかっていた        ( )</p> <p>僕は何度も（ ）。</p> <p>← しんせぎの家へ        ( ) ので、母は疎開しようと言いだした。        「と言われる。」</p> <p>母「帰ろう。」( ) ( ) 顔 ( ) 顔 ( ) 顔        山の中の親切な人の家へ(田舎 僕には) ( ) ( ) に見えた。( )        配給がない ( ) ( ) を米と交換 なくなってしまう        ヒロユキは ( ) ( ) になる 入院 ( ) ( ) 病名は ( ) ( )。        母「ヒロユキは ( ) ( )」。        小さな小さな棺に入れる 小さすぎて ( ) ( )。        母「大きくなっていったんだね。」初めて ( ) ( )。        ヒロユキが死んで ( ) ( ) 日後 ( ) 月 ( ) 日(ヒロシマ)        ( ) 投下        その三日後 ( ) 月 ( ) 日(ナガサキ)        さらに六日後終戦 つまりヒロユキの死後 ( ) ( ) 日で終戦        ( ) ( ) と ( ) ( ) 一生忘れない。</p>
--	--

大人になれなかった弟たちに……

米倉斉加年

課題

何を読み取る？

そのために何を？

作者の思いを読み取る

「そのとき、母は初めて泣きました。」 P.91 15行目

いつ？…死んだ弟を棺に寝かせようとしたが、

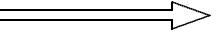
母

それまでの母＝

・ヒロユキの死…「ヒロユキは

」。

「。」



・ の家で

・ 食べ物が十分でない 僕たちに食べさせて、

。

…父は

大人になれなかった弟たちに……

米倉斉加年

作者の思いを読み取ろう

「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。」(P 92 4行目)

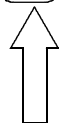
ひもじかった＝ ( ) 弟の死

・ そのころ食べ物が ( ) ・ 栄養失調

・ 甘いものは ( ) ・ 疎開しても ( )

・ 弟のミルクは ( ) ・ 母のお乳は ( )

・ ときどき配給の ( )



盗み飲みしたことをどう思っている

大人になった僕＝作者はどう思っている

さらに読み取ってみよう

戦争がなかったらどうなっていたらだろう？

「大人になれなかった弟たちに……」について  
・ 「弟たち」ってどういうことだろう？

・ 「……」にはどんな文を入れたらいいだろう？

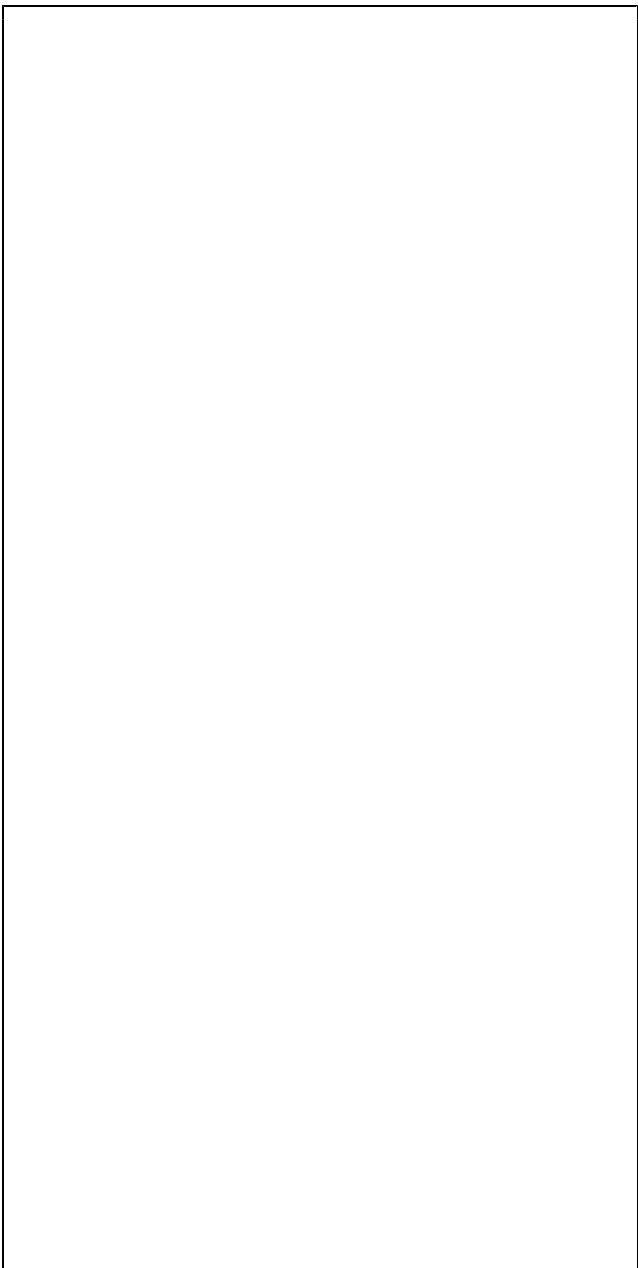
ヒロユキの死後にB 29の機体が美しく輝いて見えるなんて僕は何を考えているの？

なぜ「ヒロユキ」とカタカナなの？そういえば「ヒロシマ」「ナガサキ」もでした。  
(ヒント ふつうカタカナは、どんな言葉に使われるのかな？)

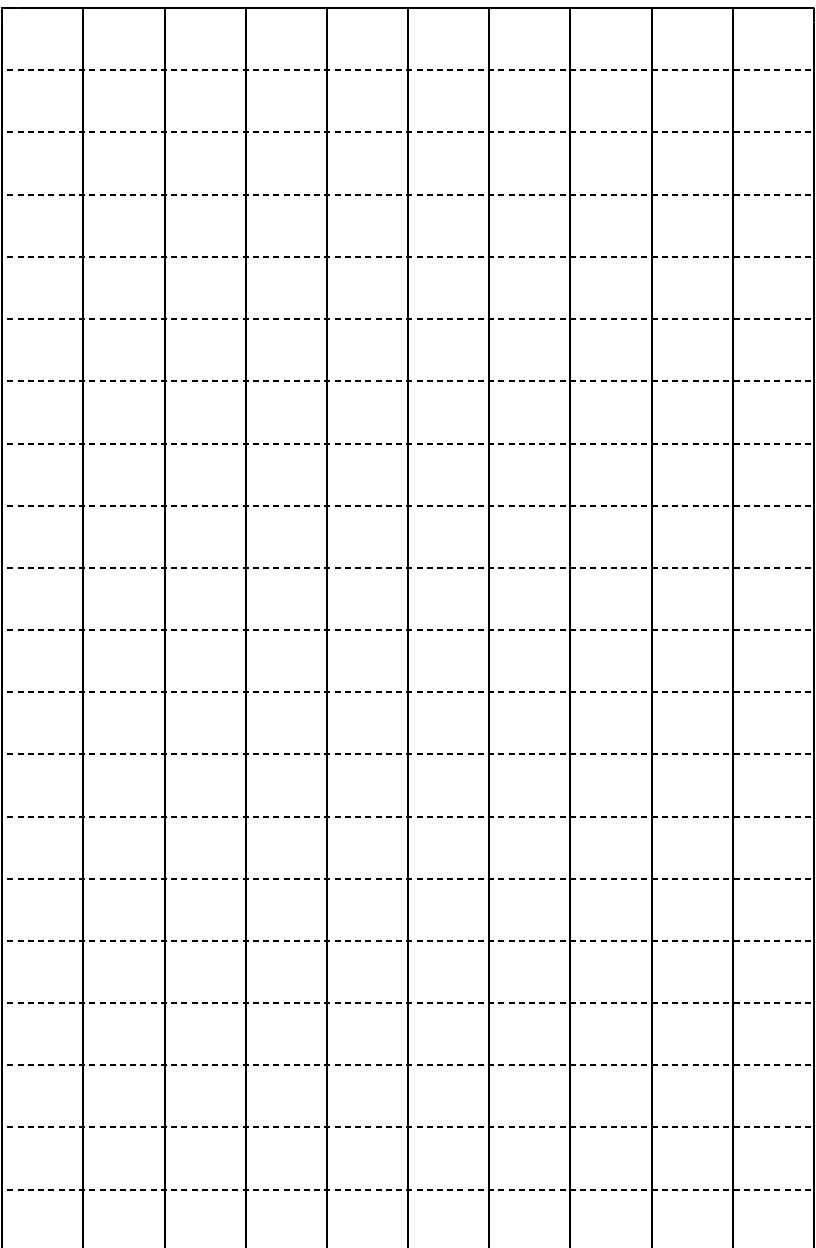


大人になれなかった弟たちに…… 米倉斉加年

読み取った作者の思いから感じたことをまとめましょう。

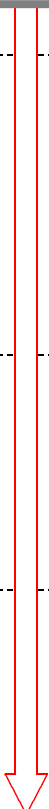


意見交流をとおして、他の人の感想を参考にして付け加えたことを含めて、自分の感想を二〇〇字以内でまとめましょう。その際、この作品を読んだことのない人にも分かるように、自分の考えの根拠となる文章中の表現を必ず入れなさい。



教材名		盆土産			
学習指導要領の内容 (指導事項)		【読むこと ウ】表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと 【言語事項 ウ】抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること			
目標		人間や家族のもつ優しさや温かさを表現に即して読み味わうことができる			
読みの目的		人物描写の優れた小説を表現に即して味わうために読む			
評価規準		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
		登場人物の人柄や心情について思いこみを寄せて読むとしている	会話や行動に沿って、主要な人物の人柄や心情をとらえている	学習「言葉」にある語を調べたりして、読み取りに生かしている	
時教		具体的評価規準( )と見取りの視点( )			
単位時間ごとの計画		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
		評価結果に応じた指導			
第一時	目標	<p>1 登場人物の人柄や心情について思いこみを寄せて読むとしている</p> <p>1 印象に残る場面や登場人物の台詞に印をつけながら読んでいる</p> <p>授業中、後：観察・学習プリント</p>	<p>2 全文を読んで、印象に残った場面や登場人物に関する表現についてまとめている</p> <p>2 全文を読んで、感想プリントの項目に対してそれぞれ記入している</p> <p>3 文章全体の大まかなあらすじをとらえている</p> <p>3 全体のあらすじ確認プリントの( )に当てはまる言葉を記入している</p> <p>授業中、後：観察・学習プリント</p>	<p>11 新出漢字(25)・新出音訓(5)を読んでいる</p> <p>11 新出漢字(25)・新出音訓(5)が読める</p> <p>12 既習漢字を使って書いている</p> <p>12 アリトやノト記入の際に既習漢字が使える</p> <p>13 学習「言葉」にある語を調べたりして、読み取りに生かしている</p> <p>13 学習「言葉」にある語とその類義語を調べ、その文脈に即した意味を読み取りに生かすことができる</p> <p>授業中、後：観察・学習プリント</p>	<p>への指導</p> <p>2については、本時のなかで机間指導によって達成状況を把握し、項目ごとに思ったことを記入させる(学習プリントに書き込んでいる時間)</p> <p>11については、ノート等に書くときにできるだけ既習漢字を使い慣れるように話す</p>
	学習内容・活動				
第二時	目標		<p>4 初発の感想を基に、提示された課題と読みの目的を確認している</p> <p>4 自分たちの感想から読み取る内容と解決する課題をノートに記入している</p> <p>5 主人公と父親の人柄や心情を表す描写をとらえている</p> <p>5 別れの場面の父親の心情描写を抜き出し、表に書いている</p> <p>6 父親の人柄を情景や心情描写からとらえている</p> <p>6 父親の描写から読み取れる人柄を表に書いている</p> <p>授業中、後：観察・学習プリント</p>	<p>11 11同上</p> <p>12 12同上</p>	<p>への指導</p> <p>12については机間指導で達成状況を把握し、グループ内で教え合うなどの形をとって、意味を確認させる</p>
	学習内容・活動				
第三時	目標		<p>7 主人公の人柄を心情描写からとらえている</p> <p>7 主人公にとってのえびフライがどんなものであるかを、心情描写を基に表にまとめて書いている</p> <p>8 読み取った父親の心情から感じたことをまとめている</p> <p>8 別れの場面でのそれぞれの思いから感じたことを、叙述を根拠に書いている</p> <p>授業中、後：観察・学習プリント</p>	<p>11 11同上</p> <p>12 12同上</p>	<p>への指導</p> <p>7については、机間指導で達成状況を把握し、本時のなかで言葉やしぐさから感じ取れることを連想させる</p> <p>8については、単なる思いつきや感想ではなく、叙述を根拠に自分の考えを書くことを指導する</p>
	学習内容・活動				
第四時	目標		<p>9 他者の考えを基に自分の考えに加筆・修正している</p> <p>9 他者の考えを読んで、他者や自分のプリントに書込をしている</p> <p>10 考えの交流をおして付け加えたことを含めて自分の意見をまとめている</p> <p>10 最終的な自分の考えを根拠を踏まえて300字以内で書いている</p> <p>授業中、後：観察・学習プリント</p>	<p>11 11同上</p> <p>12 12同上</p>	<p>への指導</p> <p>9については、自分の考えを打ち消すのではなく、付け加えることが重要であることを指導する</p> <p>10については、「読んだことのない人にも伝え、書く順序や構成を工夫させる</p>
	学習内容・活動				
教材学習の総括					
観点ごとの総括		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	評価結果に応じた指導
		B: 学習プリントか観察メモ、ノートの記述のいずれかに、登場人物の人柄や心情について思いこみを寄せている様子が見とれる A: 単元をとおして評価する	B: 学習プリントや話し合いノートの記述の評価がB以上である A: すべてがAである	B: 新出漢字・新出音訓が読めないものや、既習漢字の簡単なひらがな表記が2~3程度である 学習「言葉」にある語とその類義語を調べた意味を、読み取りの際に使っている A: すべての新出漢字・新出音訓が読めて、既習漢字を書いている 学習「言葉」にある語とその類義語を使い分けしている	

十分満足  
努力を要する



( 1 時間目 / 4 時間 )

目標		全文を読んで、印象に残った場面や登場人物の言動をまとめることができる			
規 準	学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
	学習活動における具体的な評価	登場人物の人柄や心情について思いに心を寄せて読もうとしている 教材をとおして把握	全文を読んで、印象に残った場面や登場人物に関する表現についてまとめている文章全体の大まかなあらすじを確認している	学習「言葉」にある語を調べたり、その類義語を調べたりして、読み取りに生かしている 新出漢字(25)・新出音訓(5)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握	
段 階	時間	学習活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導 入	4分	1 学習の見通しの確認	1 盆行事や出稼ぎ等について、資料に基づいて簡単に説明する		1 資料(ワーク)
		2 本時の課題確認			
展 開	8分	印象に残った場面や登場人物の言動を感想に書き、あらすじを確認しよう			
		3 新出漢字・新出音訓の確認 宿題としてノートに書いてある新出漢字・新出音訓の読みを確認	3 新出漢字・新出音訓を読んで読み仮名確認させる	10 新出漢字(25)・新出音訓(5)が読める ・観察	3 前時の終末で、新出漢字、新出音訓をノートに書いてくことを指示しておく
	27分	4 全文通読	4・5・6 全文を黙読しながら、感想記入とあらすじ確認することを指示する	2 全文を読んで、感想プリントの項目に対してそれぞれ記入している ・学習プリント	4・5・6は同時に行う 5 初発の感想は回収
		5 初発の感想記入 項目に沿ってプリントへ記入 ・印象に残った内容 ・温かさや悲しさを感じたところ	初発の感想は読んですぐにプリントの項目に従って記入させる		
10分	6 あらすじの確認 プリントの( )内に言葉を記入してあらすじをとらえる	あらすじの確認は、黙読しながら学習プリントの( )内に当てはまる語句を記入させる	3 学習プリントの全体のあらすじ確認表の( )に当てはまる言葉を記入している ・学習プリント		
	7 語句の意味と類義語の確認 学習「言葉」にある語の意味とその類義語を調べる	7 「存外」「唐突」「てっきり」「案の定」を辞書で調べ、同じような意味を表す語句(類義語)もプリントに書かせる	12 学習「言葉」にある語とその類義語を調べ、その文脈に即した意味を読み取りに生かすことができる ・学習プリント		
終末	1分	8 次時の確認			

( 2 時間目 / 4 時間 )

目 標	登場人物の人柄を表す情景や心情描写を抜き出すことができる			
評 価 規 準 学 習 活 動 に お け る 具 体 的 の	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能
	登場人物の人柄や心情について思いに心を寄せて読もうとしている 教材をとおして把握	初発の感想を基に、提示された課題と読みの目的を確認している 登場人物の言動から心情をとらえている		新出漢字(25)・新出音訓(5)を読んでいる 既習漢字を書いている は教材をとおして把握
段 階 時 間	学 習 内 容 ・ 活 動	教 師 の 指 示 ・ 発 問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留 意 事 項
導 入 1 分	1 前時の確認 2 本時の課題確認			宿題の確認(漢字) あらすじの確認
展 示 15 分	課題を設定しよう・別れの場面での、父子の思いを読み取ろう			
	3 初発の感想を基にした課題設定と読みの目的の確認 何を読み取り、それを通して解決する課題を讀みの目的として確認する	3 生徒が印象に残った部分から読み取る内容と、それを通しての課題＝読みの目的を提示する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される主な初発の感想</p> <p>はじめてえびフライを食べるところ うっかり「えんぴフライ」と言ったところ 一晩中ドライアイスを使ってえびフライを冷やす父親は優しい</p> <p>学習課題</p> <p>主人公と父親の人柄をとらえ、感想をまとめる</p> <p>読み取る内容</p> <p>別れの場面での、父子の思いを読み取る</p> <p>読取りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公にとってのえびフライ</li> <li>・父親の人柄</li> </ul> </div>	4 読み取る内容と解決する課題をノートに記入している ・学習プリント	3 初発の感想を基に設定
開 演 33 分	4 人柄や心情を表す描写の抜き出し 主人公と父親の人柄や心情を表す描写を抜き出す  5 人柄や心情把握 父親の人柄を情景や心情描写からとらえる	4 抜き出して答える発問によって適切な表現を表にまとめさせる 最後に主人公が言った言葉は何か「うっかり」とあるが、本当は何と言いたかったのか なぜ「えんぴフライ」になったのか 頭が混乱した原因は「えんぴフライ」の前にも、それに関わる言葉を言っているが「とっさに」とあるが、なぜかしゃくりあげそうになった原因は  5 内容をまとめる発問によって線引いた表現から予想される人柄や心情をまとめさせる  ・ の他にも、父親の人柄や心情が分かるところを見つけ、線を引きなさい これらの表現から見られる父親の人柄を書きなさい	5 別れの場面の父子の心情描写を抜き出し、表に書いている ・観察、学習プリント  6 父親の描写から読み取れる人柄を、予想したり、他者の発表を聞いたりして書いている ・観察、学習プリント	4 の発問は「主人公にとってえびフライとはどんなものなのか」につながる の発問は「父親との別れの寂しさ」の心情を示すことを確認する
終 末 1 分	6 次時の確認			

( 3 時間目 / 4 時間 )

目標		情景や心情描写から登場人物の人柄をとらえることができる			
具体的学習活動の評価規準における	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能	
	登場人物の人柄や心情について思いに心を寄せて読もうとしている 教材をとおして把握	登場人物の言動から心情をとらえている読み取った父子の心情のとらえを基に、感じたことをまとめている		新出漢字(25)・新出音訓(5)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握	
段階	時間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項
導入	1分	1 前時の確認			
		2 本時の課題確認			
展開	30分	別れの場面での、父子の思いを読み取るう			
		3 人柄や心情把握 主人公にとってのえびフライとは何か、から主人公の人柄を情景や心情描写からとらえる  別れの場面での、父子それぞれの思いをとらえる	3 内容をまとめる発問によって線引いた表現から予想される人柄や心情を表にまとめさせる 一場面からえびフライに関わることに分るところに線を引き、このときの主人公にとってのえびフライについて簡潔に書きなさい 二場面と墓参りの場面からえびフライに関わることに分るところに線を引き、このときの主人公にとってのえびフライについて簡潔に書きなさい まとめて、「えびフライ」は主人公にとってどのようなものか、書きなさい 主人公が「冬だら...」と、「えびフライ」と言った思いは、父親に伝わったのだろうか	7 主人公にとってのえびフライがどんなものであるかを、心情描写を基に表にまとめている ・観察、学習プリント	・では、指名発表によって教科書に線を引かせ、それぞれの場面での、「主人公にとってのえびフライ」についてまとめる  は正解を出すのではなく、考えることで父子の思いに共感させる
開	18分	4 課題解決(1) 読み取った父子の思いから感じたことをまとめる	4 課題に対する自分の考え持つ発問によって、別れの場面での父子それぞれの心情から感じたことをまとめさせる 二人の人柄や心情を読み取って感じたことを書きなさい、その際感じたことの根拠として、文章中の表現を必ず入れなさい	8 別れの場面でのそれぞれの思いから感じたことを、叙述を根拠に書いている ・観察、学習プリント	4 プリントは回収
		5 次時の確認			
終末	1分				

( 4 時間目 / 4 時間 )

目 標		父子の心情のとらえを基に、感想をまとめるができる			
の 学 評 習 価 活 規 動 準 における 具 体	国語への関心・意欲・態度	読む能力		言語についての知識・理解・技能	
	登場人物の人柄や心情について思いに心を寄せて読もうとしている 教材をとおして把握	感想を発表したり、他者の発表も聞いて、自分の感想に加筆・修正している 感想をまとめるために、発表の交流をとおして付け加えたことなども踏まえてまとめている		新出漢字(25)・新出音訓(5)を読んでいる 既習漢字を書いている 教材をとおして把握	
段 時 階 間	学習内容・活動	教師の指示・発問	評 価 ...見取りの視点 評価方法	留意事項	
導 入 1 分	1 前時の確認				
	2 本時の課題確認				
展 示 30 分	主人公と父親の人柄に対する感想をまとめよう				
	3 課題解決(2) 他者の考えを基に自分の感想に加筆・修正する	3 交流 (グループで) グループ内で他者の感想を回読みし、以下の手順で書込みをさせる 共感するところ - - - 自分が気づかなかったところ 一言感想 で自分が気づかなかった考えは自分のプリントにメモする	9 他者の考えを読んで、他者や自分のプリントに書込をしている ・観察、学習プリント	3 一言感想は「よかった」などではなく、「どんなところが」「読んだ時の自分の思い」をできるだけ具体的に書くことを指示する	
開 演 12 分	4 課題解決(3) 考えの交流をとおして付け加えたことを含めて自分の意見をまとめている	4 まとめ 交流をとおして付け加えたことなどを含めて、自分の感想を300字以内で書かせる	10 最終的な自分の感想を300字程度でまとめることができる ・観察、学習プリント	4 赤ペンで書き込んだメモを付け加えて、本編を「読んだことのない人にもわかるように」を意識して書くことを指示する	
終 末 7 分	5 次時の予告	5 「印象的な一場面を書こう」の予告をする			



盆土産

三浦哲郎

はじめて読んで感じたことをまとめよう  
・印象に残った場面とその理由

-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----

・優しさや温かさを感じるところを抜き出そう

-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----

・悲しさやさびしさを感じたところを抜き出そう

-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----

全体のあらすじをとらえよう。

三 盆入りの日	二 盆の前日	一 盆の前日
	( )	( )
<p>父親との別れ</p> <p>「はい、お早くう。」バスが発車。</p> <p>頭を揺さぶられ、」。( )。と言ってしまう。</p> <p>不意に ( ) ( ) そうになる。</p> <p>父親は ( ) ( ) で東京へ戻ることになる。</p> <p>小さすぎる母の ( ) ( ) を花で埋め、供え物をし、迎え火をたいた。</p> <p>祖母が ( ) ( ) 中で「えんびフライ」と唱える。</p>	<p>食事の様子</p> <p>父親 ……焼いた雑魚を ( ) ( )。</p> <p>祖母 …… ( ) ( ) を食べてむせる。</p> <p>自分・姉…えびフライを一尾ずつ食べる。</p> <p>( ) ( ) というような音。</p> <p>いい歯 ( ) たえで ( ) ( ) うませ</p> <p>隣の喜作も土産を買ってもらっている。</p> <p>( ) ( ) に驚く。</p> <p>( ) ( ) に驚く。</p> <p>父親の様子…真新しいハンチング</p> <p>額の上の方は、病んでいるかのように ( ) ( ) かった。</p> <p>はじめて見るえびフライ ( ) 一晩中 ( ) ( ) 続けて持って帰る。</p> <p>( ) ( ) に驚く。</p> <p>( ) ( ) に驚く。</p> <p>父親の好きな生そばのだしのために ( ) ( ) を釣る。</p> <p>( ) ( ) が届く。</p>	<p>家族構成… ( ) ( ) ( ) ( ) ( )</p> <p>東京の工事現場で働く ( ) ( ) 姉・祖母</p> <p>場所 …… ( ) ( ) 地方 (青森)</p> <p>時季 …… ( ) ( ) の頃 (八月十五日前後)</p> <p>( ) ( ) で</p> <p>( ) ( ) とつぐやく。</p> <p>( ) ( ) ( ) 盆土産に持って帰ると父親からの ( ) ( ) が届く。</p> <p>( ) ( ) ( ) 姉も祖母もえ ( ) ( ) のことを ( ) ( ) にちがいない。</p> <p>( ) ( ) とびきり ( ) ( ) ( ) を釣る。</p>

次の言葉の意味を確認して、同じような意味を表す語句を挙げよう

存外	唐突	てつきり	案の定

盆土産  
三浦哲郎  
みんなの感想から課題を設定しよう

課題

課題解決のために読み取ること

何が分かれば読み取れる？

別れの場面での、父子の思いをとらえよう  
・別れの場面での、主人公と父親の会話から二人の気持ちを読み取ろう

主人公	父親
<p>「冬だら、ドライアイスもいらねへな。」</p> <p>「えんびフライ。」</p>	<p>「いや、そつでもなかべおん。冬は汽車のスチームが……いるべおん。」</p> <p>「んだら、ちゃんと留守してれな。」</p> <p>「わかってらあ。また買ってくるすけ。」</p>
主人公にとっての	父親

